

第七十四回帝國議會 船舶建造融資補給及損失補償法案委員會會議錄(速記)第二回

付託議案  
船舶建造融資補給及損失補償法案  
(政府提出)  
海運組合法案(政府提出)  
造船事業法案(政府提出)

會議

昭和十四年三月十三日(月曜日)午後一時三十八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 野田文一郎君

理事中川 重春君 理事木原 七郎君

理事佐藤洋之助君 理事田中源三郎君

山本 厚三君 小林房之助君

高木条太郎君 板谷 順助君

濱地 文平君 芦田 均君

青木 精一君 岡崎 憲君

小山 亮君

同月十一日委員古島義英君辭任ニ付其ノ補關トシテ高木条太郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ

三月十一日海運組合法案(政府提出)及造船事業法案(政府提出)ノ審査ヲ本委員ニ付託セラレタリ

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣 兼 鹽野 季彦君  
逓信大臣

出席政府委員左ノ如シ

逓信政務次官 平川松太郎君

逓信省管船局長 伊勢谷次郎君  
保險院長官 進藤 誠一君  
委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

議員 米窪 滿亮君

管船局書記官 新谷寅三郎君

管船局書記官 長井 實行君

管船局書記官 米田富士雄君

管船局事務官 武田 元君

管船局事務官 今井田研二郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

船舶建造融資補給及損失補償法案(政府提出)

海運組合法案(政府提出)

造船事業法案(政府提出)

○野田委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス

○板谷委員 私ハ議案ノ審議ニ入ルニ先ダ

チマシテ政府ノ決意ノアル所ヲ伺ヒタイノデアリマス、多年ノ懸案トナツテ居リマスル内外地ヲ通ジテノ海事行政ノ統一、是ハ今更事新シク申上ゲマセヌデモ、一昨日モ大臣ハ本會議ニ於テ之ヲ實現スルコトニ考ヘテ居ルト云フ御答辯ガアツタノデアリマ

ス、併シナガラ此ノ度政府ガ御提出ニナリマシタ本案ノ審議ニ付キマシテモ、海事行政ノ統一ガ出來ナイ限リハ私ハ此ノ法案ノ效果ハ薄イモノデハナカラウカト考ヘル、ソレデ此ノ點ニ付キマシテハ、御承知ノ通り船舶ノ將來ノ發展ト云フコトハ、言フマデモナク海外ニ進出スルト云フコトヲ目標トセナケレバナラス、此ノ關係カラ考ヘマシテモ年々議會毎ニ政府ハ此ノ問題ニ付テ同意デアアル、出來ルダケ實現スルト云フコトヲ仰シヤツテ居ルケレドモ、未ダニ是ガ解決ヲシナイノデアリマス、デアルカラ此ノ議案ト並行シテ、此ノ議會中ニ此ノ海事行政ノ統一ト云フコトニ付テ如何ナル御考ヲ持ツテオ居デニナルカ、御伺致シマス

○鹽野國務大臣 内地外地ノ海運行政ヲ統一スルト云フ問題ハ、多年ノ要望デモアリ、政府ニ於キマシテモ關係官廳ト協議シ、研究致シテ居ル所デアリマス、船舶ノヤウナモノハ、移動性ノモノデ、内外ヲ通ジテ活動ヲ致シテ居リマスカラ、之ニ對シテハドウシテモ統一の行政ヲスルノガ適當ト考ヘテ居ルノデアリマス、今次ノ事變ガ起リマ

シテ、尙更其ノ感ヲ深クスルノデアリマシテ、隨テ近キ將來ニ於テ、内地外地ノ海運行政ヲ統一一致シタイト考ヘテ居リマスガ、御說ノヤウニ此ノ議會中ニ直グソレヲ實現スルヤウ、斯ウ云フ御希望ニハ副ヒ難イト存ジマス、當局ト致シマシテハ出來ル限リノ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

○板谷委員 此ノ法案ガ假ニ通過ヲ致シマデモ、私ハ效力ガ薄イト考ヘルノデアリマスガ、其ノ點ハ如何デアリマスカ、内地外ヲ通ジテノ海事ノ行政統一ガ出來ナクテモ、效果ヲ十分擧ゲ得ルト云フダケノ自信ガアリマスカ

○鹽野國務大臣 固ヨリ内地外地ガ統一サルコトハ希望致シテ居ル所デアリマスガ、現在ノ儘ニ於キマシテモ、是等ノ三法案ヲ實施致シマスレバ、我ガ海運ノ上ニ多大ノ效果ガアルモノト信ジテ、之ヲ遂行スル考デ居リマス  
○板谷委員 私ハ何レ質問ノ際ニモ十分申上ゲマスガ、先ヅ先決問題トシテ、内地外ヲ通ジテノ海事行政ノ統一ガ出來ザル限リハ、如何ニ此ノ法案ヲ御出シニナツテモ、

效果が薄イ、斯ウ考ヘテ居リマス、何レ質問ノ際ニ申上ゲマス

○野田委員長 逕信大臣ノ提案理由ノ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマスガ、此ノ委員會ニハ船舶建造融資補給及損失補償法案、海運組合法案、造船事業法案ノ三案ガアリマスガ、之ヲ一括シテ審議ヲ進メタイト思ヒマス、御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○野田委員長 ソレデハ左様ニ致シマス、逕信大臣ノ説明ヲ求メマス

○鹽野國務大臣 船舶建造融資補給及損失補償法案、造船事業法案並ニ海運組合法案提案ノ理由ニ付キマシテハ既ニ本會議ニ於テ申上ゲタ通りデアリマスガ、各法案ノ要旨ニ付キマシテ、尙ホ一應御説明致シタイト存ジマス

先ヅ船舶建造融資補給及損失補償法案ニ付テ申上ゲマス、本案ハ我が海運界ニ於テ多年要望セラレ來ツタ造船金融ノ制度ヲ確立致シマシテ、業者ヲシテ船舶建造ヲ計畫的ニ實行セシメマスルト共ニ、併セテ船價ノ低減ヲ期シ、以テ本邦海運發展ノ根基ヲ確立セントスルモノデアリマス、而シテ本法ニ依リ貸付ノ條件ハ大體ニ於テ從來ノ豫算外契約ニ依リ施設ト同様ト爲ス見込デア

リマスガ、資金融通ノ限度ニ付テハ特ニ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ニハ、船舶建造資金ノ全額迄融通シ得ルコトトシ、又貸付ヲ受クベキ船舶ノ範圍ヲ擴張スル等、一二ノ點ニ付キ改善ヲ加フルコトト致シタキ考デアリマス

次ニ造船事業法案ニ付テ申上ゲマス、本案ニ於キマシテハ第一ニ造船事業ヲ許可事業トシ、之ニ適當ナル指導監督ヲ行ヒマスト共ニ、一面設備償却ノ途ヲ確立致シマシテ、斯業ノ健全ナル發達ヲ期シ、第二ニ土地ノ收用使用及資金調達上ノ便宜ヲ與ヘマシテ、將來ノ生産力擴充ニ支障ナカラシメ、第三ニ造船事業ノ現狀ニ即應致シマシテ試作獎勵、國産品使用ノ厲行、推進性能試驗ノ厲行又ハ規格ノ統一ヲ圖リマシテ優秀經濟船ノ廉價製造ノ途ヲ定メ、第四ニハ造船事業者ノ組合ニ關スル規定ヲ設ケ、業者ノ自治的協力ヲ強化致シマシテ、技術ノ進歩、建造船價ノ低減ニ資セシメ、延イテハ斯様ノ健全ナル發達ニ貢獻セシメントスルノデアリマス

最後ニ海運組合法案ニ付テ申上ゲマス、本案ハ現下内外ノ情勢ニ對應シ、海運界ニ規律アル組合機構ヲ整備セントスルモノデアリマシテ、即チ本邦海運業ノ健全ナル發

達ヲ期スル爲メ、海運業者ヲシテ海運組合及ビ其ノ聯合會ヲ設立セシメ、其ノ團結力ニ依リ政府ノ政策ニ順應シテ海上運賃並ニ傭船料等ノ統制ニ協力セシムルト共ニ其ノ共同ノ福利ヲ増進スル爲メ諸般ノ施設ヲ爲サシメントスルノデアリマス、而シテ本組合ニ對シテハ政府ニ於テ適當ナル指導監督ヲ行ヒ其ノ事業運営ノ適正ヲ期セシムル意嚮デアリマス、尙ホ是等ノ三法案ノ實施ニ當リマシテハ、斯業ノ實情ニ即シ、努メテ民意ヲ酌ミ、苟モ當業者ノ企業心ヲ萎靡セシメザルヤウ、政府ニ於キマシテモ特ニ配意致ス所存デアリマス、何卒御審議ノ上御賛成アラント切望スル次第デアリマス

伊、寧ロ一番多イト存ジマスカラ、厚生大臣ニ是非出席ヲシテ戴キタイ、又一方ノ委員會デ差支ノアル場合ニハ、相當ノ代理者ヲ御出シニナツテ御答辯ニテラスト、審議ガ圓滑ニ行カスト云フコトヲ希望ヲ申上ゲテ置キマス

私ノ質疑ハ先ヅ第一ニ、此ノ付託サレタ三法案ハ何レモ今日ノ我國ノ海運ノ上カラ言ツテ最モ適切ナ法案デアリマスルカラ、御提案ニナツタコトニ付テハ非常ニ同感デアリマス、造船事業ガ此ノ儘デハ振興シナイ、我國ノ要求スル船腹ヲ得ルト云フコトハ出來マセスカラ、獎勵金、助成金等ヲ出シ、又統制監督ヲ致シテ要求ノ船腹ヲ得ルト云フコトハ適切中ノ最モ適切ナモノデアリマスカラ、此ノ法案ノ趣旨ニハ全ク賛成デアリマス、之ニ伴ツテ融資補給ニ關スル法律、又一方船舶業組合法制定モ當然必要ニナツテ來ルノデアリマスカラ、大體ニ於テ趣旨ハ賛成致シマスガ、内容ニ付テハ相當疑問ノ點ガアリマスカラ順次御尋フ致シマス

○山本委員 質問ニ入ルニ先ダチマシテ、政府ニ要求致シテ置キマスガ、是ト最モ關係ノ深い船員保險法ヲ、從來ノ議會ノ慣例ニ基イテ非常ニ不便ナ委員付託ヲシタノデアリマシテ、船員保險法ガ職員保險法ニ併託ニナツテ居ルノデアリマス、是ハ此ノ審議ノ上ニ非常ナ不便ヲ生ズルト思ヒスガ、ソレハ別ト致シマシテ、厚生大臣ノ臨席ヲ求メテ居リマスガ、恐ラク此ノ委員會ニ於テモ船員保險法ニ關スル質疑ガ相當ニ多

先ヅ第一ニ我國ノ海運ガ近來非常ニ進歩ヲ致シテ居リマスガ、東洋ニ於ケル我國ノ立場又貿易關係カラ推シテ非常ナ船舶ノ擴張ヲシナケレバナラス、就テハ今日政府ノ持ツテ居ラレル船舶ノ擴張計畫ハドノ程度ノモノデアルカ、何處マデ擴張ス

レバ要求ニ應ズルコトガ出來ルカ、先ヅソ  
レヲ伺ヒタイと思ヒマス

○鹽野國務大臣 御説ノ通りニ我國ノ海運  
ハ大陸ニ對スル關係ニ於キマシテ益、擴充ス  
ベキ必要ガアルノデアリマス、昭和十六年  
度マデノ間ニ總計二百萬噸ヲ期シテ建造致  
サセル豫定デ居リマス

○山本委員 昭和十六年度ニ至ルマデニ一  
年六十五萬噸ヅツ約二百萬噸ト云フコトハ  
豫算總會ニ於テ政府カラ御發表ニナツタ物  
動計畫ノ中ニモアツタヤウニ存ジマスガ、  
是ハ三年ノ計畫デアリマス、此ノ融資ノ法  
律案ヲ見マス、十年間ト規定シテ居ルカ  
ニ記憶致シマスルガ、三年後ハドウナルカ、  
日本ノ海運業トシテ、三年間ニ二百萬噸ト  
云フコトハ分ツテ居リマスガ、三年位ナ豫  
定デハ洵ニ頼リナイ話デアリマシテ、將來  
何處マデ行クノデアアルカ、尤モ十年後ノコ  
トヲ聽クノデハアリマセスガ、ドウ云フ目  
安デ三年間二百萬噸ト云フ數字ガ出テ來ル  
カ、其ノ根本方針ヲ伺ヒタイと思ヒマス、  
噸數ノコトハ第二デアリマス

○鹽野國務大臣 物動計畫ノ上カラ言ツテ  
モ亦國防上カラ申シマシテモ、此ノ三四年  
間ハ特ニ船腹ヲ必要トスルノデアリマシテ、  
只今申上ゲマシタ以外ニ十七年マデニ七百

五十萬噸、詰リ百五十萬噸ハ必要デアラウ  
ト云フ計畫ヲ立テテ居ルノデアリマス、尙  
ホ其ノ後ニ於キマスルコトハ兩三年ヲ經マ  
シタ經過ニ鑑ミマシテ之ヲ決ムベキモノト  
考ヘテ居リマスガ、尙ホ昨年來俄ニ船腹ヲ  
増ス必要ノ爲ニ外國船ヲ購入シタノデ所謂  
古船モアリマス、左様ナモノヲ解體シテ新  
造船ニ代ヘルヤウナ必要モ出來マスカラ、  
造船事業ハ相當長キニ亙ツテ忙シイコトト  
考ヘテ居リマス

○山本委員 噸數ヲ以テスル政府ノ御方針  
ハソレデ分リマシタカラ其ノ點ハ其ノ程度  
ニ致シテ置キマス、此ノ融資補償法ニ依ル  
融資金額ハ大體ドレ位ノ所ニ目安ヲ置イテ  
居ラレルカ、又損害ニ對スル補償金ハドノ  
位ノ金額デアアルカ、是ハ新聞ナドニモ出テ  
居リマスガ、ドノ位ノ金ヲ銀行ニ御貸ニナ  
ルカ、又銀行ニ御貸付ニナル資金ノ利息ハ  
安イドラウト思ヒマスガ、之ヲ銀行ガ船舶  
ヲ建造スル船主ニ貸ス場合ニハドノ位ノ率  
デナケレバिकासト云フ制限ヲ御置キニナ  
ラナケレバナラスと思フ、之ヲ無暗ニ高ク  
貸シテハ何ニモナラス、斯ウ云フ點カラ貸  
付總額及ビ補給金ノ總額並ニ補償額ハドノ  
位ノ豫定デアリマスカ、局長デモ誰方カラ  
デモ御同致シタイ

○伊勢谷政府委員 私カラ御答申上ゲマス、  
今後ノ融資金額デゴザイマスガ、是ハ先程  
御話ノ中ニ出マシタ生産力擴充計畫ノ上デ  
見積ツテ居リマス、船舶擴充計畫ノ爲ニ必  
要ナル資金ハ相當巨額ニ上リマシテ約九億  
近クニナツテ居リマス、併シナガラ此ノ建  
造資金ナルモノハ海運業者ノ自己資金カラ  
出テ來ルモノモアリマスシ、又此ノ法律ニ  
依ル資金ノ融通ヲ必要トシナイ向モアルノ  
デアリマス、此ノ金額ハ船舶建造ニ要スル  
資金ノ全體ヲ睨ンデ資金計畫ニ入レテ居ル  
ノデアリマス、隨ヒマシテ今後此ノ法律ニ  
依ツテドノ程度マデ資金ノ融通ヲ爲シテ行  
ク必要ガアルカト云フコトハ、全般ヲ通ジ  
マシテ非常ニ面倒ナ問題ニナルノデゴザイ  
マス、ソコデ私共ト致シマシテハ經濟界ノ  
狀況、船舶建造ニ要スル資金ノ需要狀況、  
其ノ中デドレ位貸付ヲ必要トスルカト云フ  
コトヲ豫測シマシテ、毎年度豫算ニ計上シ  
テ參ル積リデ居リマス、取敢ズ來年度ト致  
シマシテ、只今豫定シテ居リマスル貸付金  
額ハ約九千萬圓ト云フコトヲ豫定シテ居ル  
ノデアリマス、ソレカラドレ位ノ利率  
デ銀行カラ貸出スヤウニスルカト云フコ  
トニ付テノ御意見ハ、洵ニ御尤ト存ジマ  
ス、之ニ付キマシテハ銀行ノ方ノ所謂資金

「コスト」ト云フモノガアルノデアリマスカラ、  
是ハ融通資金ノ調達ニ依ツテ、金融機關ニ  
依ツテ異ナル場合ガアルト考ヘルノデアリ  
マスルガ、其ノ「コスト」ハ是ハ主務大臣ガ調  
ベテ認定スルコトニシテ、サウシテ所謂利子  
ノ補給ニ依リマシテ、實際貸付ケル利率ニ  
付キマシテハ、只今ノ所三分七厘ト豫定致シ  
テ居ルノデゴザイマス、併シナガラ此ノ利  
率ナルモノハ、金融情勢ノ變動ニ依ツテ異ツ  
テ參ルノデゴザイマスルカラ、是ハ勅令デ  
定メテ其ノ時ノ狀況ニ應ズルヤウニ致シタ  
イ考デゴザイマス、而シテ又ドレ位ノ損失  
補償ヲ政府ハ爲ス必要ガアルカト云フコト  
ニ付キマシテハ、之ニ對スル豫算ト云フモ  
ノハ計上致シテ居ラスノデゴザイマス、實  
際損失ガ出マシタ場合ニ於テ之ヲ豫算ニ計  
上シテ損失補償ヲ致シタイト云フ考デゴザ  
イマス、其ノ所以ノモノハ、御承知ノ通り  
昭和五年ヨリ豫算外契約ニ依ル建造資金ノ  
金融ヲヤツタノデゴザイマスルガ、其ノ實  
績ヲ見マスルト、今日ニ至ルマデ損失ヲ生  
ジタ場合ハ一件モナイノデゴザイマス、成  
程海運ハ市場ガ好況デアリマスル場合ニ於  
キマシテハ宜イケレドモ、不況ニナリマス  
ルト非常ニ經營ガ困難ニナツテ、借金ノ利  
息ヲ拂フコトガ非常ニ困ルト云フ風ナ場合

ガ起ルノデゴザイマスルガ、併シナガラ貸付年限ガ十五年以内ト云フコトニナツテ居リマシテ、非常ニ長期デアリマスルカラ、ソレヲ均シテ、「アベレージ」シテ見マスルト、損失ノ出ル場合ハ非常ニ僅少デアラウ、斯様ニ豫測シテ居リマス、隨テ損失ガ出來マシタ場合ニ於キマシテ豫算ニ計上致シタイ斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○山本委員 只今ノ三分七厘ト云フノハ銀行カラ貸付ケル方ノ利息デアリマセウ、其ノ銀行ニ補給スル補給金ニハ利息ガ附カヌノデアリマスナ

○伊勢谷政府委員 是ハ先程一寸申シ漏シタノデアリマスルガ、假ニ例ヲ以テ申上ガマシタ方ガ宜イト思ヒマスルガ、此ノ日本興業銀行ノ例ヲ取ツテ見マスルト、其ノ融通資金ノ「コスト」ガ假ニ四分二厘ト致シマス、ソレヲ實際貸シマスル場合ニ三分七厘デ貸シマスカラ、其處ニ五厘ト云フ開キガ生ズル、此ノ開キト、ソレカラ一分トヲ加ヘマシタ一分五厘ト云フモノガ補給利子ニナル勘定デゴザイマス、隨テ又其ノ逆ノ場合ガアルコトモ觀念上想像サレルノデゴザイマスルガ、即チ資金「コスト」ガ三分デアルト致シマスルト、三分七厘ニ之ヲ貸ス譯デアリマスルカラ、結局一分ノ中ニ七厘喰込シテ

行キマスカラ、三厘ダケノ補給ヲスレバ宜シイ、斯様ナ譯デアリマス

○山本委員 ソコデ根本ノ問題ニ還ツテ御伺スルノデアリマスガ、先般祕密會デアツタト思ヒマスガ、船舶建造ノ豫定ハ是レ是レデアルト云フコトガ御發表ニナツテ、只今伺フト、即チ四年間ニ三百萬噸殖エルコトニナル、デアリマスカラ、一年ニ七十五萬噸ノ船舶ヲ建造シナケレバ平均ニナラナイ、ソコデ私伺ヒタイノハ、大體造船設備ト云フモノガ今日ハ無論足りマセスカラ、設備ヲ増加シナケレバナラス、物動計畫デアリマスカラ、或ハ鐵モ機械モ幾ラデモ使フノデアリマセウガ、今日ノ我國ノ船舶建造設備カラ考ヘマシテ、毎年七十五萬噸ナント云フ船舶ヲ——丁度今ノ倍ニナルト思ヒマスルガ、其ノ倍ノ船舶ヲ造ルト云フヤウナ設備ガ一體出來ルノデアリマセウカ、一體ドウ云フ算盤カラオヤリニナツタノカ、必要ガ一年ニ七十五萬噸アルノダカラ何デモヤルノダ、斯ウ云フ風ナ、逆ニオヤリニナツタノカ、逆バカリデナシニ、本當ニサウ云フ設備ガ出來ルト云フ、無論何カ御調査ガアツタノデアラウト思ヒマスルガ、此ノ點ヲ一ツ伺ツテ置カナケレバナラス、ソレカラ序ニ資金デアリマスルガ、假ニ三

百萬噸造ル御方針デアルト云フト、今ノ相場デ幾ラ安クテモ四百圓ト見テ十二億圓要ルノデス、四箇年ニ十二億圓ノ資金ガ要ルノデアリマスルガ、ソレニ今九千萬圓御貸シニナルト言フ、是ハ一年ニ十二億圓要ルノデヤアリマセヌガ、四年間ニ十二億圓要ルノデヤ一年ニ割ルト三億圓、是ダケ要ルノデアリマスルガ、此ノ外色々ノ船ヲ造リマスガ、政府ノ御獎勵ニナルモノダケデソレダケデアル、サウスルト三億圓ノ金ニ來年ハ九千萬圓御出シニナルカラ後、三分ノ二ハ自分デ持つト云フコトニナルガ、サウスルト今ノ貸金ト船舶建造費トノ割合ガ合ハナクナリマセヌカ、此ノ法律ニ依ルト百萬圓ノ船ナラバ幾ラニナリマスルカ、大體七割位ニナリマスカ、六割五分ニナルカ、ソナモノデアラウト思フ、是ハ書イデアリマセヌガ、擔保價格ト云フモノノ算出法ガ書イデアル、七割要ルト云フト、一年ニ三億圓要レバ二億一千万圓御貸シニナラナケレバナラス、勿論其ノ他ニ銀行ノ金ガアリマスカラ之ヲ貸セルガラウト思ヒマスガ、是ハドウ云フ御計算カラ九千万圓ト出タノデアリマスカ、要スルニ資金ノ關係ハ物動計畫デオヤリニナツテ居ルカラ、是デ完全ニ行クノデアリマセウガ、

此ノ二點ヲ御伺致シマス

○伊勢谷政府委員 造船能力ニ付テノ御尋デゴザイマスガ、申スマデモナク造船事業ハ綜合工業デゴザイマシテ、獨リ造船所デ色々ノ物ヲ拵ヘルダケデハナシニ、其ノ材料附屬品等ハ、ソレ等ノ物ヲ拵ヘル工場デ拵ヘル、斯様ニナツテ居リマシテ、其ノ附屬工業ノ種類ハ五十種類以上ニナツテ居リマス、ソコデソレ等ノモノヲ調査致シテ計算シテ見マス、我國ニ於ケル總噸數千噸以上ノ船舶ノ造船臺數ハ現在九十七臺デゴザイマス、サウ云フコトヲ「ベース」ニシテ計算シテ見マス、一箇年ノ造船能力ハ八十八萬噸以上ニナルノデゴザイマス、又船用機關ノ製造能力ハ、是ハ「ディーゼル」機關「タービン」機關、內燃機關、サウ云フモノヲ合セマス、是等ノ噸數ニ略、充足セラレルト考ヘテ居ルノデゴザイマス、又我國ノ造船職工ノ造船能力ハ一年ニ約十總噸ト云フ風ニ、計算シテ見マス數字ガ出テ居ルノデアリマス、今アリマスル主要造船所ノ職工數カラ勘定シテ見マス、是レ又無論八十萬噸以上ニ達シテ居ル、斯様ニ考ヘルノデゴザイマス、隨ヒマシテ造船能力ノ點ニ於キマシテハ、相當擴張シナケレバナラスト云フコトハアルノデゴザイマスルガ、先ヅ

ヤツテ行ケルト考ヘテ居ルノデゴザイマス  
次ニ造船資金ノ額ニ付テノ御尋デゴザイ  
マスルガ、是ハ例ヘバ興業銀行ガ貸シマス  
場合ニハ興業債券ヲ發行シテ資金ヲ調達ス  
ル、サウシテソレヲ造船資金トシテ貸渡シ  
テヤル、斯ウ云フ譯デゴザイマスカラ、政府  
ガ低利資金ヲ出シテヤツテ、ソレヲ銀行ガ  
取次イデ貸スト云フ趣旨デハナイノデゴザ  
イマス、ソレデ先程申上ゲマシタヤウナ資金

「コスト」ト融通資金ノ利率ト云フモノトノ開  
キニ付テハ之ヲ補給シテ参リタイ、斯様ニ  
考ヘテ居ルノデアリマスガ、斯ノ如キ點ニ  
付キマシテハ實ハ現在海運會社等ニ於キマ  
シテ造船資金トシテ豫定シテ居ルモノモア  
リ、又一方面ニ於キマシテ非常ニ海運界ノ  
問題ニナツテ居リマスル減價償却ノ點モ今  
度ノ臨時措置法ニ依リマシテ相當ニ減價償  
却ガ出來ルヤウニナツテ参ツテ居リマス、  
大體ニ於テソレニ依ツテ減價償却ヲシテ参  
リマス、建造後五箇年間ニ原價ノ約半額  
位マデハ減價償却ガ出來ル、此ノ金ハ又設  
備擴充ノ方ニ船會社トシテ廻シテ行ケルト  
云フヤウナコトモアルヤウニ思ハレルノデ  
アリマス、旁、將來ズツト見透シマシテ、  
此ノ爲ニ幾ラマデ貸サナケレバナラヌカト  
云フコトヲ今カラ豫定致シマスコトハ非常

ニ困難ダト考ヘルノデアリマス、唯來年度  
ニ付キマシテハ、是ハ實ハ來年ノ建造計畫  
ノ豫定ハ五十數万噸ト豫定シテ居ルノデゴ  
ザイマスルガ、之ニ對シテ既ニ此ノ前ノ一  
億五千萬圓ノ範圍内デ造船計畫ヲ立テテ、  
資金ノ借入ヲ申込シテ居ル者ガ相當デゴザ  
イマス、サウ云フ色々ノコトヲ調べテ見マシ  
テ、約九千万圓ノ融通計畫ガ遂行出來ル  
モノト考ヘテ居ルノデアリマス

○山本委員 造船所ノ設備、職工ノ能力等  
皆見テアルト云フコトデアリマスガ、現在  
造船所ノ能力ト云フモノハ「フル」ニナツ  
テ居ツテ、殆ド造船ノ註文ト云フコトガ權  
利ニナツテ居ル、歐洲戰爭當時ノヤウニ一  
噸二百圓モ三百圓モハ、シマセヌガ、微力ノ  
者ナド今申込シテモ受付ケモシナイヤウ  
ニ、大キナ造船所ハ今「フル」デス、然ル  
ニ八十萬噸ト云フト——今ハ三十萬カラ四  
十萬噸シカ出來ナイ、昨年アタリハ四十萬  
噸位デセウ、サウスルトアト四十萬噸ノ能力  
ハ遊ンデ居ツタノデアリマスガ、吾々一寸  
了解シ難イノデアリマスガ其ノ點ヲ一ツ、  
ソレカラ資金ノ點ハ五十萬噸トスレバ、二  
億圓、モツト高イ船モアリマスガ二億圓、  
ソレニ對シテ九千万圓補給ナサレバ少クナ  
イ、是ハ宜シイガ、是ハ後ニ又伺ヒマスガ、

減價償却ニ付テハ臨時措置法ガアツテドウ  
トカ言ハレマシタケレドモ、マダ今日ソシ  
ナコトニハナツテ居リマセヌ、是ハ税法ノ  
關係ハ一體ドウナツテ居リマスガ、是ハ何  
レ又後デ伺ヒマスガ、ソレデ先ヅ積立金ヲ  
ドン——ヤツテ居ル大會社デハ僅カノ借入  
金デ現在ヤツテ居ツテ、コンナモノノ必要  
ハナイカラ、是ハ小會社ノミガ利用スレバ  
宜イノデアルガ、今五十萬噸ナラバ將來ハ  
九十萬噸ナリ百萬噸ニナルト私共ハ思ヒマ  
スガ、是ハ見様ニ依ルコトデ、政府ニ於テ  
ハサウ見テモ、ソレハ唯吾々ト見方違フ  
ト云フダケノコトデアリマスガ、一體今ノ  
八十萬噸ノ造船能力ト云フコトノ根本ハド  
ウ云フヤウニ解釋スレバ宜シイノデアリマ  
スカ

○伊勢谷政府委員 申上ゲ方ガ惡カツタカ  
ト思ヒマスガ、御承知ノ通り、現在ノ造船  
能率ト申シマスガ、ソレハ材料ノ方カラ非  
常ニ制約サレテ居ルノデアリマス、隨ヒマ  
シテ造船台ニ載ツテ居リマスル期間ガ相當  
長クナリ、工事ガ遅延致シテ居リマス、此  
ノ點ハ造船事業法等ノ施行ニ依リマシテ逐  
次建直シテ参リタイト思フノデアリマス、  
職工ノ手ガ餘ツテ居リ、工事ガ進メ得ラレ  
ルニモ拘ラズ、材料ノ配給ガ中々十分ニ行

カスト云フコトノ爲ニ造船能率ガ擧ガラナ  
イ、其ノ爲ニ造船ノ數量ガ少イト云フ點モ  
アリマス、ソレカラ又帆船ノ建造デアリマ  
ストカ、軍需品ノ製造其ノ他陸上工事等ヲ  
引受ケテヤツテ居リマス造船所ガ非常ニ多  
イノデゴザイマシテ、此ノ方ニ手ヲ殺ガレ  
テ居ルト云フ點モ多アルノデアリマス、  
畢竟今後船腹擴充計畫ニ基ク船舶ノ建造ヲ  
豫定通りニ遂行シテ行キマス爲ニハ、獨リ  
資金ノ點バカリデナシニ、今後ニ於テ一層  
其ノ建造材料ヲ圓滑ニ供給シテ行クコトガ  
非常ニ重要ナ問題ニナツテ來ルノデアリマ  
ス、此ノ點ニ付キマシテハ、關係各方面ト  
能ク協議シマシテ、軍需品ニ準ズルト云フ  
建前カラ其ノ配給ヲシテ行カウト云フ方針  
デアリマス

○野田委員長 一寸山本君ニ申上ゲマス、  
厚生大臣ノ出席ノ御要求ガアリマシタガ、  
今出席シ兼ネルサウデアリマス、ソレデ保  
險院長官ノ進藤君ガ代リニオ出デニナツテ  
居リマスガ、長ク此ノ席ニ居ラレルコトガ  
困難ダサウデアリマスカラ、此ノ方ニ御尋  
ニナル事項ガアレバ先ニ御尋ニナルコトガ  
便宜ダト思ヒマス  
○山本委員 ドウモ途中デ質問ヲ切ルコト  
ハ困ルノデアリマスガ、ドウシテモ直グ他

へオ出デニナラナケレバナラストスレバ、船員保險法ノ質問ヲスルコトニ致シマシテ、其ノ後デ遞信省ノ方ヲ伺ヒマス、但シ此ノ船員保險法ハ兩省ニト申スヨリハ寧ロ、遞信省ノ方ニ關係ガ深イノデアリマスカラ

其ノ順序デソレデハヤリマス、船員保險法ノ問題ハ是ハ相當昔カラノ問題デアリマシテ、漸ク是ガ世ニ出タノデアリマスガ、船員法ハ改正シタバカリノヤウニ記憶致シテ居ルノデアリマス、是ハ兩省カラ伺ヒタイノデアリマスルガ、船員法ヲ改正シテ、一

面ニハ政府ノ御指圖デ船主ガ集ツテ海事協同會ヲ作ツテ相當ニ船員ノ扶助ト申スカ、生活安定其ノ他ノコトヲ今實行致シテ居ルノデアリマス、内容ニ於テハ或ハ今度ノヤウナ法律的デハアリマセヌガ、ソレダケデモ行カヌコトハナイ、ケレドモ之ニ超シタコトハアリマセヌカラ、船員法ヲ御出シニナツタコトニ反對ハシマセヌ、是ハ贊成シマス、御出シニナツタコトハ宜シイ、唯伺ヒタイノハ無論船員法ダケデハ不満足、不完全デアリ、海事協同會等ノ施設デハ足りヌト云フコトカラ御出シニナツタノデアリマセウガ、私昨年カラズツト見テ居ルト、ドウモ船主側ノ方ト十分ナル協調ガ保タレテ居ラヌヤウデアリマス、遞信省トシテモ

是ハ重大ナ責任ト申スカ義務ガアルノデアリマスガ、一體兩省トモ船主側ト十分協調ヲシテ御出シニナツタ案デアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイノデアリマス

○野田委員長 一寸山本君ニ申上ゲマスガ厚生大臣ハ是非出席シテ貰ヒタイト云フ要求ガ他ニモアリマシテ、厚生省ニ對スル質問ハ其ノ時ニシタイト云フ方モアリマスガ、アナタノ御質問モサウ云フ風ニナサル方ガ便宜カ、或ハ今ノ點ダケデモ御聽ニナリマスカ

○山本委員 ソレデハ一寸速記ヲ止メテ御相談シタイト思ヒマス——ソレデハ其ノ問題ハ留保シテ置キマス

ソコデ先程ノ御説明デスガ、アレデハ私ハマダ腑ニ落ちナイノデアリマス、八十万噸ノ力ガアルノニ半分シカヤラナカツタノハ、陸上ノ機械等ヲ造ツテ居ツタノト、軍需品ヲヤツテ居ツタノト、資材ガ圓滑ニ供給セラレナイ、其ノ爲ニ設備ハアルケレドモ半分シカ出來ナカツタト云フ、所ガ今度ハ物動計畫デ關聯ヲ取ツテヤツテ居ルカラ、準軍需品トシテ扱フカラ、是等ノ點モ全部解決セラレテ八十万噸出來ル、斯ウ云フ御答辯ノヤウデアリマスガ、是ハドウモ了解出來ナイ、何故ナラバ、陸上ノ機械ト云フ

モノモ皆今日ノ時代ニ必要デアリマスカラ、之ヲ全部止メ、又軍需品ノ如キモノモ止メテ船ヲ造ルト云ツタラ——併シ幾ラ物動計畫デモ廻シテ取ル譯ニハ行キマセヌ、又資材ガ便利ニナルト仰シヤルガ、資材ト云フモノハ鐵、金屬ガ一番多イノデアリマス、

此ノ鐵ノ供給、石油ノ供給ニ付テハ政府モ能ク御承知ノ通り、是ガ中々大問題デアル、追加豫算ノ議論ト云フノモ是バカリデス、有ユル人ガ同ジヤウナコトヲ毎日ヤツテ居ルガ、到頭今以テ解決ガ付カヌ、吾々モ隨分調ベテ見タ、マア大キイ聲デハ言ヘヌケレドモ、中々是ハ面倒ナ問題デアル、ソレヲ四十萬噸ダケハ設備ハアツタケレドモ、

出來ナカツタノダ、又材料ガナイ爲ニ造船ニ長ク掛ツタ、ソレガ今度ハスラ——ト早クヤレルヤウニナルカラ、旁、倍出來ル、斯ウ云フ御話デアリマスケレドモ、ソシナコトハ私共ハ出來ルトハ思ハレス、造船臺ヲ澤山造ラナイデ、今マデノ能力ヲ倍ニ働カセル、事實其ノ通りニ働カセルト云フ御注文ノヤウデアリマスケレドモ、ソレハ如何ナモノデアリマセウカ、サウスルト他ノモノヲ止メテシマフノデアリマスカ、全部止メテシマハナイト、八十万噸ニハナラヌ、是レ以上ヤルニハ無論造船臺ヲ殖ヤシ、會

社ノ新シイノガ出來テ、獎勵スレバ出來マセウ、ケレドモ今日造船所ナドヲ造ルコトハ容易ナコトデハナイ、ソレハ他ノ色々ナ重工業ヨリハ儲カルカラ必死ニナツテヤルダラウガ、資材ガナイ、ドウモ今ノヤウナ御答辯ダト私共ハ分ラヌ、ソレニ付テ大臣ニ御意見ガアレバ承ツテ置キタイ、アナタハ政府ノ色々ナ御關係デ物動等ニ直接御關係ナサツテ居マスガ、サウ云フコトガ出來

マスガ、同ジ國內デ輸入ノ止ツテ居ルモノヲソシナコトガ出來レバ實ニ結構ナコトデス、是バカリデハアリマセヌ、有ユル工業ガ皆困ツテ居ルガ、獨リ此ノ造船事業ガ能力ヲ「フル」ニ發揮スルコトガ可能デアリマセウカ、大局カラ御意見ヲ伺ツテ見タイ

○鹽野國務大臣 只今マデノ所、造船能力ヲ全部發揮シ得ナカツタ事情ノ主タル點ハ材料ノ供給ガ足りナカツタト云フ點ニアルノデアリマス、此ノ點ヲ除キマス、順調ニ能力ヲ發揮シ得ル、ソレ故ニ物動計畫ノ上ニ於キマシテ主タル材料、詰リ鋼材ニ付キマシテハ、軍需品ニ準ズル取扱ヲ致シマシテ、之ヲ供給スルト云フコトニナリマスカラ、ソコデ材料ガナイ爲ニ、單ニ能力ヲ遊バセテ置ク譯ニ行カヌカラ、他ノ仕事モヤツテ居リマシタ現狀カラ脱シテ、造船專

門ニ其ノ方ニ能力ヲ向ケル、斯ウ云フコト  
ニナリマスカラ、全力ガ發揮シ得ル、斯ウ  
云フ考デ居ル譯デアリマス

○山本委員 吾々モサウ云フ風ニ軍需品ニ  
準ジテドシ／＼資材、殊ニ鐵ガ來ルヤウニ  
希望ハ致シテ居リマスガ、前日來ノ政府ノ  
御發表、御説明ダケデハ、サウ各方面ニ左  
様ナ註文通リノコトガ出來ルカドウカ、是  
ハ政府ガサウ云フ御考ダト仰シヤレバソレ  
マデデアリマスガ、是ハ餘程綿密ナ御調査  
ニナラスト云フト、今ノ御答辯デハ一般ノ  
國民ハ諒承出來マセス、現在吾々ガ民間ノ  
事業ヲ見テ居ル所ニ依レバ、最モ大切ナコ  
トハ御説ノ通り此ノ資材デアル、此ノ點ハ  
後ニ疑ヲ殘シテ、尙ホ政府ノ方デモ吾々ニ  
分ルヤウナ御答辯ガ出來ルナラバ他日ニ御  
説明ヲ願ヒマス

次ニモウ一ツ、是ハ一番大キナ問題ダ  
ト思フコトハ、海員ガ十分ニ供給出來ル  
カドウカト云フ問題デアリマス、是ハ先  
般豫算總會、分科會等デモ隨分論ゼラレ  
テ、所謂商船學校問題ト云フヤウナコト  
ニ關聯シタノデアリマスガ、アレモアノ  
當時ドウモ了解出來ナカツタケレドモ默ッ  
テ居ツタ、大體御豫定ノ七百五十万噸ト云  
フト海員ハ一體幾ラ要ルノデアリマセウカ、

同時ニ序ニ御聽シタイノハ、船舶ノ建造ハ  
何噸カラ何噸位マデ、大體千噸以上ト云フ  
コトデアリマシテ、上ノ方ハ餘リ遠洋航海  
ノ方ハ造ラスト仰シヤルノデアリマス、何  
噸カラ何噸、平均何噸ノ船ヲ左様ニ澤山御  
造リニナツテ、大體船數デ、四年間ニ三百  
万噸位デスカラ、平均デ割ツテ見レバ分リ  
マスガ、ソレニ依ツテ海員數ガ出ルノデア  
リマスカラ、其ノ御豫定ヲ御聽シテ四年間  
三百萬噸ニ對シテ一體新シイ船員ガ幾ラ要  
ルカ、先ヅ之ヲ御伺致シマス

○伊勢谷政府委員 下ノ方ハ今仰セノヤウ  
ニ千噸以上ト考ヘテ居リマス、上ノ方ハ我  
國海運ノ實情ニ適スルヤウニ建造シナケレ  
バナラスト思ツテ居ルノデアリマスガ、ソ  
レニ付キマシテハ二ツノ重要ナ觀點ガアル  
ト思ツテ居リマス、其ノ一ツハ支那ニ對ス  
ル我國海運ノ進出上必要トスル船舶デアリ  
マス、次ニ我國ノ海運ノ海外進出カラ見タ  
必要ナ船舶デアリマス、此ノ二ツノ觀點カ  
ラ調和ノ出來タ船舶ノ擴充ト云フコトヲ希  
望シテ居ルノデアリマス、併シソレヲ今全  
般ニ互リマシテ、何噸ノモノヲ何隻ト云フ  
コトヲ豫定致シマスコトハ非常ニ困難デア  
リマスカラ、サウ云フモノハ中々豫定出來  
ナイノデアリマス

○山本委員 ソレハ出來ナクテモ宜イノデ  
アリマスガ、ソレニ對シテ海員ガドノ位要  
ルカ、御承知ノ通り海員ハ直グニ出來ナイ、  
學校ヲ卒業シタカラト云ツテ、有資格者ニナ  
ルニハ四五年掛カルノデスカラ、今カラ御  
準備ニナツテ居ラナケレバナラス、是ハ遞  
信大臣ニ伺フノデアリマスガ、之ヲ御調べ  
ニナルニハ、勿論物動計畫ノ上カラ云ツテ、  
海員ノ養成準備ト云フモノヲ篤ト御研究ノ  
上デ御發表ニナツタト思ヒマスガ、是ハ遞  
信省ダケデハナク、半分ハ文部省關係ニナ  
リマスガ、一體今ノ政府ノヤリ方デ海員ノ  
數ガ満足ニ行クノデアリマスガ、一隻四五  
十人要ルノデアリマスカラ、大體ノ人數ヲア  
トデ政府委員カラ御答辯下サレバ宜シイガ、  
何万人アル中デ有資格者ガ何人アルト云フ  
コト伺ヒタイ、ソレヨリモ今御尋シタコト  
ニ付テ政府ハ御確信ガアリマスガ

○鹽野國務大臣 御尤ノ御尋デアリマスガ、  
船舶ノ増加ニ伴ツテ海員ヲ準備スベキコト  
ハ勿論デアリマスノデ、其ノ點ニ付テハ高  
級ノ船員養成ニ付テハ文部省ニ御任セヲ致  
シ、又下級ノ普通ノ船員ニ付テハ遞信省ガ  
養成所ニ於テ養成スルト云フ大體ノ案ヲ作  
リマシテ、本年度ノ豫算ニ於テモ現レテ居  
ルヤウナ次第デアリマスガ、尙ホ參考トシ

テ海運側ノ意見モ徴シテ豫算モ、計畫モ組  
ンデアル次第デアリマス、人員等ハ政府委  
員カラ申上ゲマス

○伊勢谷政府委員 船員ノ需要ニ付キマシ  
テハ、昭和十三年十一月末ニ於キマスル一  
千噸以上ノ我國船舶ハ千百六十九隻、四百  
九十四万一千噸餘デアリマス、先程大臣カ  
ラ申上ゲマシヤウニ、昭和十七年マデニ約  
七百五十万噸マデ急造スルモノト推定シ、  
ソレカラ假ニ其ノ以後ノ船舶増加ノ割合ハ  
過去二十五年間ノ平均ヲ取ツテ考ヘテ見マ  
スト、昭和十九年ノ海員ノ必要數ハ甲板  
部ガ六千五百名餘、機關部ノ方ハ六千六百  
人餘ニナルノデゴザイマス、而シテ之ニ對  
スル供給ト致シマシテハ、高等商船學校、  
竝ニ來年度豫算ニ出テ居リマス官立中等商  
船學校ノ卒業生ヲ以テシテ、大體ニ於テ需  
要ト供給ガ旨ク折合フト云フ計算ニナツテ  
居ルノデアリマス、無論從來ノ公立ノ商船  
學校モ立派ナ成績ヲ擧ゲテ居ルノデゴザイ  
マスガ、何分ニモ入學者ノ中卒業スル者ハ  
五割位ノ數ニ止ツテ居ツタノデアリマス、  
然ルニ官立中等商船學校ノ方デハ學費モ支  
給致シマスカラ、入學シタ者ノ中卒業マデ  
ニ減少スル數ハ大體ニ於テ一割三分程度ニ  
見積ツテ居ルノデアリマス、隨テ收容人員

ノ増加ト云フコトト、中途退學者ガ非常ニ減少スルト云フコトト、此ノ二ツノ方面カラ致シマシテ船舶職員ハ相當澤山確保出來ルヤウニナルト考ヘテ居ルノデアリマス。

○山本委員 私モ一寸計算シテ居リマスガ、斯ウ云フコトハ餘リニ煩雜デアリマスカラ此處デハ申上ゲマセヌ、私ノ色々ナコトカラ來タ計算ニ依リマスト連モ足リマセヌ、是ハ先達デノ豫算分科會デモ地方公立商船學校問題デ隨分小山委員ト細カイ議論ガアリマシタ、私聽イテ居ツテ小山君ノ言フ方ニ大體賛成デアリマシタ、私共ノ考デハ一万三千人位デハ足リナイト思フ、十九年ト仰シヤツタノハ十七年ニ造船シテ、人ノ要ルノガ十九年ト云フ所カラ來タノデアリマセウガ、是ハ三百萬噸ニ對スル増員デアリマセウカラ、コンナコトデハ足リナイト思フ、ノミナラズ今ノ學校ノ設備デ入學者モ一杯入ツテ來ルシ、全部卒業スルヤウニナツテ吳レルカラ云々ト仰シヤルガ、公立ニ御直シニナツテ文部省直轄ニシタツテ、サウ澤山殖エルモノデアリマセヌ、是ハ話ハ別ニナリマスケレドモ、同ジ教育事業デスガ、高等工業ヲ十三カ十九殖ヤスト云フコトヲ言出シテ、文部省ハ十一要求シタサウデスガ、其ノ中約七ツ大藏省ガ通ツテソ

レヲ御提案ニナツタ、七ツノ高等工業ヲ今カラ新シク建築ニ掛ツテ、機械設備ヲスルノハ大變ナコトデス、其ノ上大體先生ガアルカナイカト云フト、ソレハモウナイト言ツタ方ガ本當デス、併シ是ハ満足ニモ關係ガアリマスカラ、兎ニ角文部省ハ其ノ點ニ付テハ力ヲ入レテ居ル、義務教育モ何モ放ツタラカシテコンナ大キナ教育ノ計畫ヲ發表シテ居ル、所ガ商船學校ト水産講習所トヲ見スマト、是ハ尙ホ非常ニ足リナイトデ弱ツテ居ル、是モ間ニ合ハナイ、海員ノ養成ト云フモノハ二ツノ高等商船デハ連モ足リマセヌ、併シ考ヘテ見ナケレバナラヌコトハ、平時ニ於テハ餘ツテ弱ツテ居ツタ、アア云フコトモアリマスノデ、唯澤山海員ヲ養成スルト云ツテモ、サウ端的ニモ參リマスマイ、併シ不足ダツタラ船ガ動カヌノデアリマスカラ、先ノコトハ先ノコトトシテ文部省ト御協議ニナツテ、海員ノ養成ハ今度オヤリニナル位デナク、モウ少シ高等海員ノ養成モ同時ニオヤリニナラヌト、是ハドウシテモ足リナイト云フコトニナリマス、ソレデ船舶業者ト御相談ニナツタト仰シヤイマスケレドモ、私ハ船舶業者ノ會合ニ度々出マスケレドモ、サウハ言ツテ居リマセヌ、コンナニ船ヲ造ツテ、金ハ政府ガ何

トカスルダラウケレドモ、政府モ人ハ造レヌ、海員ハ今カラ養成シナケレバナラヌガ一體ドウスル積リカ、商船デモ郵船デモ有力者ハ皆サウ言ツテ居リマス、是ハ勿論政府デモ出來ナイト思ツテオヤリニナツテ居ルノデハナイ、觀點ガ違フノデアリマセウガ、マダ四五年先ノコトデアリマスカラ、來年度ニ於テ養成所デモ學校デモ御造リニナル計畫デモナサラスト三百萬噸デハ船員ガ連モ間ニ合ヒマセヌ、大體三百萬噸ト云フコトガ今以テ私ハ安心ガ行カヌノデアリマス、ソレガ百五十萬噸位デアツテ吳レバ、間ニ合ヒマセウガ、政府ノ計畫ノ中是ガ一番整ツテ居ラス、是ハ餘程大臣モ御研究ニナツテ計畫ヲ御立テニナラヌト、トンダ間違ヒガ起ルト云フコトヲ一言申上ゲテ置キマス。

ソレカラ次ニ御伺シタイコトハ、先程一寸出マシタ減價却ノコトデアリマス、是ハ非常ニ重要ナコトデアリマシテ、アナタ方モ是ハ御協議ニナツテ居リマセウガ、歐洲戰爭後ノ船舶業者ノ打撃ト云フモノハモウ酷イモノデアリマシタ、ソレガ爲ニ我國ノ海運業ニ大打撃ヲ與ヘタノデアリマスガ、是ハ今カラ平時ニ還元スル所ノ政策ヲ御執リニナラヌトイカヌ、ソレニハ強制的ニ償

却サセナケレバナラヌ、所ガ船舶業者ノ船主協會カラ意見書ガ出テ居リマスガ、ソレハ政府デモ始終御覽ニナツテ居ル、ソレハ二十五年ヲ二十年償却ニ更訂シテ、ソレハ二ツニ分ケテ、利益ノ半分ハ二十年ノ減價償却ニ充テル、アトノ半分ハ任意デ全部償却シテ宜シイ、所謂任意償却ト云フコトヲヤラセレバ宜シイ、ソコデ實ニ不思議ナコトハ、任意ニ償却スルコトヲ止メル法律ガアルカト云フトソレハアル、ソレハ稅法デ以テ任意ニ償却シタノハ償却ト認メナイ、中ニハ狡イ船主ガアツテ、個人デアルト帳面ガ分ラヌカラ、償却シタト稱シテ償却シナイデ居ルコトモアル、或ハ他ノ事業ニ用ヒルコトモアリマス、ソレハ法律ヲ作レバ幾ラデモ制裁ガ出來ル、ソレハ法律ノ力デ止メルコトヲシナイデ、寧ロ法律ノ力デ任意償却ヲウント殖ヤシテ、他ノ事ニ金ヲ使ハナイヤウニシテ、戰爭ガ濟ンデ船ガ只ノヤウニナツテモ大丈夫借金ハ返セル、斯ウ云フ方針ヲ御執リニナツテ居ルヤウナ先刻ノ御言葉デアリマシタガ、實際サウ云フ御方針デヤツ居ルノデアリマセウカドウカ、伺ヒタイト思ヒマス。

○伊勢谷政府委員 洵ニ御尤ノ御意見ヲ伺ヒマシタ、此ノ減價償却ニ付キマシテハ外

國ノ實例ヲ見マス、相當大キナ減價償却ヲ認メテ居ル國モアリマス、我國デモドウシテモ減價償却ニ付テ一段ト改善ヲ加ヘナケレバナラヌト云フコトヲ痛感致シテ居ルノデアリマス、殊更此ノ時局ニ當面シマシテ洵ニ御説ノヤウニ爲サナケレバナラヌト思フノデアリマス、ソレデ關係方面トモ常ニ熱心ニ其ノ事ニ付キマシテ打合セテシテ參リマシタ、一面ニ於キマシテ只今仰セノヤウニ海運業者ノ方カラ熱心ナル御要望ガアツタノデアリマス、是ハ大藏省ノ主税局長ト打合セテ御答辯申上ゲル次第デアリマス、今度ノ臨時租稅措置法ノ改正ニ依リマシテ、所得稅ニ付キマシテモ之ヲ輕減シ得ル中ニ入レルコトニナリマシタ、サウシテ第一條ノ四ノ第三號ノ中ニ船舶ノ價格ノ償却ト云フノガ入ツテ參ツタノデゴザイマス、ソレニ基キマシテ大藏省ノ方デ措置セラレル要領ハ、船舶デアツテ昭和十四年四月一日以後ニ製造シタモノニ付テ、左ノ方法ニ依ル償却ヲ爲シタ場合ニ於テハ之ヲ差損金又ハ必要ナ經費ト看做ス、左ノ方法ト申スノハ、船舶ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ニ付テ、製造後三年內ニ終了スル各事業年度ニ於ケル均等以下ノ金額ヲ償却シ、是ト別途ニ殘餘ノ價額ニ付テ普通償却ヲ併

セ爲スコト、即チ建造價額ノ三分ノ一ニ相當スル金額ハ之ヲ三箇年間ニ均等償却ガ出來ル、其ノ三分ノ一ヲ引イタ殘餘ノ三分ノ二ニ付テハ普通償却ヲ行ヒ得ル、斯様ニ措置セラレルカラ、私カラ其ノ事ハ申上ゲテモ宜シイ、斯ウ云フコトデ御答申上ゲタノデアリマス

○山本委員 此ノ改正法ヲ讀ンデ居ラナイ爲ニ知ラナイノデアリマスガ、御話ノ如クンバ、最初ノ三分ノ一ハ三年間ニヤツテ宜イ、勿論ハハ二十分ノ一ノ規定ニハ入ラヌガラウト思フ、アトノ三分ノ一ヲ普通償却、餘程緩和サレテ居リマスガ、今ノ船價ガ事變前ニ較ベマスト三倍以上ニナツテ居リマスカラ、此ノ計算ハ果シテ妥當デアルカ、是レ以上ノ償却ヲシタクテモ稅法デハ出來ヌト云フコトニナリマスカラ、是ハ一應私ガ調査ヲシタ上デ更ニ他ノ機會ニ御尋シタイト思ヒマス

モ御迷惑デアラウト思ヒマスカラ、他日何カノ機會ニ御答辯願フコトニ致シマス、ソレカラ日本海ノ汽船ハ是ハヤルコトガ宜イカ、惡イカ今以テ私ニハ分リマセヌガ、ドウモ様子ヲ見テ居ルト、外地、内地ノ船舶行政統一ノコトニ付テ別ニ伺ヒタイト思ツテ居ルノデアリマスガ、ソレガ第一非常ニ日本ノ海運ヲ妨ゲテ居ル、ドウモ滿洲國ハ滿洲國關係ノ人ガ無暗ニ口ヲ出シテ、日本ガ一生懸命ニ命懸ケデヤツテ居ル事業ヲ抑ヘ付ケテ、無理ニ之ヲデツチ上ゲルヤウナコトガ出來タヤウニ私ハ聞イテ居ル、ソレデ前ノ遞信大臣ノ時分カラ私ハサウ言ツテ居ルノデスガ、何モ滿洲ト云ツテモ同盟ト云ヒマスガ、ウチノ國デアリマスカラ、滿洲ガ口ヲ出シタイカスト云フノデハアリマセヌ、大イニ宜シイ、所ガ滿洲デ半分ナリ三分ノ一ノ金ヲ出スト云ツタ所デ日本カラ持ツテ行ツタ金デス、殆ド日本ノ資本デス、日本海汽船會社ト云フモノガ出來ルノニ——日本ノ人ノヤツテ居ル會社ヲ無理ニ抑ヘ付ケテ合併サシテ、ソレヲ「リード」スルヤウナコトハ遞信省ハ許スマイト思フケレドモ、ソレガ出テ來テ軍部トマデハ申サヌケレドモ、滿洲ト云ヘバ軍部關係ダラウ

セ爲スコト、即チ建造價額ノ三分ノ一ニ相當スル金額ハ之ヲ三箇年間ニ均等償却ガ出來ル、其ノ三分ノ一ヲ引イタ殘餘ノ三分ノ二ニ付テハ普通償却ヲ行ヒ得ル、斯様ニ措置セラレルカラ、私カラ其ノ事ハ申上ゲテモ宜シイ、斯ウ云フコトデ御答申上ゲタノデアリマス

○山本委員 此ノ改正法ヲ讀ンデ居ラナイ爲ニ知ラナイノデアリマスガ、御話ノ如クンバ、最初ノ三分ノ一ハ三年間ニヤツテ宜イ、勿論ハハ二十分ノ一ノ規定ニハ入ラヌガラウト思フ、アトノ三分ノ一ヲ普通償却、餘程緩和サレテ居リマスガ、今ノ船價ガ事變前ニ較ベマスト三倍以上ニナツテ居リマスカラ、此ノ計算ハ果シテ妥當デアルカ、是レ以上ノ償却ヲシタクテモ稅法デハ出來ヌト云フコトニナリマスカラ、是ハ一應私ガ調査ヲシタ上デ更ニ他ノ機會ニ御尋シタイト思ヒマス

ソレカラ次ニ先般本會議ニ於テ大臣ノ答辯中對支航路、日本海航路等ノ所謂國策ニ對スル政府ノ方針如何ト云フ質問ニ對スル御答辯ヲ御伺ヒマシタガ、殆ド對支航路ノ問題ハ祕密事項ノヤウデ御話ガナイ、日本海航路ノ方ハ前年來著々ヤツテ居ルカラ近ク實現ヲスル積リデアル、斯ウ云フ風ニ速記ニ出

○山本委員 祕密會ヲ御希望ナラバソレデモ宜シウゴザイマスガ、祕密會ト云ツテモ政府ハ大シテソナ祕密ナ事ヲ言ツタメシガナイノデアルカラ、マアソレハ委員長ニ申上ゲテ置キマスガ、今祕密會ニスルノ

ト思フガ、是ガ關係ノナイ海ニ出テ來テ、ソレヲ搔廻シテ何デモヤラナケレバ承知セヌト云フコトヲ言ツタノデハアルマイカト思フガ、是ハ私ハ遞信省トシテマサカ滿洲ニ抑ヘ付ケラレタトハ思ハヌガ、少クトモ腰ガ弱カツタト云フコトダケハ想像サレルノデアリマス、一體此ノ會社ト云フモノハ遞信省デ御計畫ニナツテ滿洲ニ勸メテ滿洲モ入ラセルヤウニシタイノデアリマスカ、聞ク所ニ依ルト、朝鮮總督府ガ朝鮮郵船ハ朝鮮ノ爲ニヤツテ居ル航路デアルカラ航路ヲ讓ル譯ニハ行カヌト言ツタノデ、半年モ延ビタヤウニ仄聞シテ居ルノデス、日本ノ國デス、日本ノ國ノ海運ヲコンナ大キナ金ヲ使ツテ法律案ヲ出シテ、船モ造リ金モ貸シテヤル、サウシテ色々ナコトヲヤツテ將來ニ備ヘヨウトシテ居ル、其ノ海運ノ一部ニ外地カラ、滿洲國カラ口ヲ入レラレタリシテ、遞信省ノ思フヤウニナヌト云フコトハ、實ニ私ハ怪シカラヌコトダト思フ、ソレデ今板谷サンノ行政統一ト云フコトハ能ク聞キマセヌデシタケレドモ、恐ラク斯ウ云フコトモ入ツテ居ルノダラウト思フガ、此ノ大キナ日本ノ海運行政ヲヤツテ居ル遞信省デ、外地ハ、殊ニ日本ノ中ナンデスカラ、サウ云フ所ノ海運當局ト意見ガ合

ハナカツタリ、變ナコトヲ言ハレテ事ガ壞レルト云フコトハ、内閣トシテモ私ハ怪シカラヌト思フ、怪シカラヌヨリハドウモ注意ガ足ラヌト思フノデス、是ハモウ委員會デモ本會議デモ出マシタヤウニ、外地ノ在籍船ト云フモノハ洵ニ色々ナ問題ガ起ツテ困ル、大連ノ置籍船ト云フモノハ實ニ色々ナ時ニ出テ來テ惡戯ヲシテ、其ノ都度是ハ困ツタモノナノデス、是ハ他ノ行政モアリマスカラ、サウハ行カヌガ、斯ウ云フ商賣ノヤウナコトハ早く此ノ内閣デ御統制ニナツテ、内閣ノ言フコトヲ聞カヌモノナドナイヤウニシテ貰ハヌト困ルノデス、其ノ中ノ一ツガ今ノ日本海汽船ト是カラ出來ヤウト云フ會社デアリマスルガ、之ニ對シテ滿洲國カラ權利モ何モ持ツテ居ラスデ、無闇ルカナイカ、伺ツテ見タイト思フ

**○鹽野國務大臣** 滿洲國ハ日本海ニ港ヲ持ツテ居リマセヌケレドモ、日本海ノ航路ハ滿洲ト内地トヲ接續スル最モ近キ距離ニアルノデアリマス、隨テ滿洲ニ對スル我國ノ經濟的竝ニ國防的ノ見地カラ致シマシテ、此ノ航路ヲ擴大充實スル必要ガアルト考ヘラレルノデアリマス、殊ニ一昨年カラ滿洲移民ノ計畫ガアリ、之ヲ實行スル輸送

機關ト致シマシテモ、日本海航路ヲ最モ適當ト考ヘ、之ヲ指導致シテ居ル次第デアリマス、隨テ日本海航路ヲ統一スルト云フ問題ハ、何モ滿洲國カラ請求セラレテ出來タモノトハ考ヘマセヌ、我國ノ國策ト致シマシテ其ノ必要ヲ感じ、隨テ關係官廳等トモ協議致シテ出來タコトト思ヒマス、ソレニ付キマシテハ其ノ航路ヲ走ツテ居ル船舶ノ各會社ヲ統一シテ、一箇ノ大キナ國策會社ヲ作ルコトガ必要ト考ヘラレ、ソレニ依リマシテ航海度數ヲ増加シ、或ハ連絡時間ヲ短縮スル、其ノ他種々改良スベキ點ヲ實行シテ行キタイト云フノデ、昨春秋以來話ヲ進メテ居リ、話モ略々纏リマシテ、近イ中ニ會社ガ設立ヲ見ントシテ居ル次第デアリマス

**○山本委員** 御答辯ノ如クニ遞信省カラ之ヲ發案シテ國策トシテヤツテ行ク、サウ云フヤウニ御答辯ニナル外ナイノデアリマ스가、滿洲國ガ口ヲ出シタト云フコトヲ私ハ別ニ彼此レ言フノデハアリマセヌノデ、大事ナ同盟國デアリマスカラ、滿洲國ノ便利ニナルヤウニコナラカラ進ンデサウ云フ施設ヲスルト云フコトハ、是ハドウシテモ御願シナケレバナラヌガ、前ニ私が申上ゲタヤウナコトガアルト、是ハ大變惡例デアリ

マシテ、是レ一ツナラバ私ハ斯様ナコトハ言ヒタクナイノデアリマスガ、他ニモ大分是ガアル、非常ニ日本ノ經濟ヲ脅シ、發達ヲ妨ゲル前例ガ澤山アル爲ニ、其ノ一ツトシテ御伺スル譯デアリマス、ソレカラ此ノ計畫ト云フモノヲ伺ツテ居リマスルト、能ク内容ハ分リマセヌガ、其ノ中ニ朝鮮、東北、北海道ニ渡ル所ノ定期航路ヲヤツテ居ル線ガアリマスルガ、此ノ線ガ入ツテ居リマセウカ、ドウデアリマセウカ、伺ヒタイノデス

**○伊勢谷政府委員** 朝鮮ヨリ東北、北海道ニ參ツテ居リマスル航路ハ入ツテ居リマセヌ

**○山本委員** 是ハ北鮮カラ秋田縣ノ船川、青森、函館、小樽ト云フヤウナ航路デヤツテ居ル定期船デアリマスルガ、是ハドウ云フ譯デ統制ヲオヤリニナルノニ之ヲ一ツ御取リニナツタノデアリマセウカ、其ノ理由ヲ伺ツテ置キマス

**○伊勢谷政府委員** 此ノ會社ノ經營致シマスル航路ハ、何ト申シマスカ、日本海ヲ繞ル主要ナル處ヲ連絡スル航路ヲ斯様ニ豫定シテ居ルノデゴザイマシテ、隨テ朝鮮郵船ノヤツテ居リマスル幹線ト重複スル部分ハ、是ハ此ノ會社ニ出資セシメルガ、所謂

「ローカル・ライン」ト云フモノハ、是ハ出資ヲセシメナイト云フ積リデ居リマス、隨テ「ローカル」的ニ朝鮮ヨリ東北地方、北海道ヘ向ツテ居リマスル航路ハ、是ハヤハリ入レナイ、斯様ナ方針ヲ執ツテ居ル次第デアリマス

○山本委員 モウ一ツ、是ハ別ノ問題デアリマスガ、海員組合法デ經費ノ徵收ノコトガアリマスルガ、是ハ強制徵收ニナツテ居ラスヤウデアリマスルガ、サウデアリマシタカ

○伊勢谷政府委員 其ノ組合ニ依リマシテハ、組合ノ經費ヲ國稅滯納處分ニ依ツテヤルト云フヤウナ強制的ノ取り方ヲヤツテ居ル組合モアリマスガ、此ノ海運組合ニ付キマシテハ、組合ノ性質カラソコマデ行クノハドウモ穩當デナイ、隨テ經費ヲ分賦致シマシテ、組合員ガソレヲ納付スルコトヲ怠リマシタ場合ニハ、組合ノ定款ノ定ムル所ニ依ツテ過怠金ヲ徵收スルコトガ出來ルト云フコトニ致シマシテ、其ノ邊ノ締括リヲ付ケルヤウニシタ方ガ適當ト考ヘテ居ル次第デアリマス

○山本委員 是ハ私ノ意見デアリマスガ、大體法律ニ依ル同業組合ハ強制徵收ニシタ方ガドノ位ノ數デアリマスガ、但シ組合員

ガ大キナ船主ト云ヘバ相當實力ガアルカト云フノデアリマセウカ、今マデノ色々ナ經驗カラ行クト、強制徵收ニシタ方ガ納リガ宜イト云フノハ、中ノ役員ノ衝突ナドデ大キナ金ヲ納メナイ人ガ、田舎ノ組合デハ出テ來マス、是ハ私ノ意見ヲ申上ゲテ置クノデアリマス、以上デ私ノ質問ハ海員保險ニ關スル質問ト、祕密會ニ於ケル御答辯ダケヲ留保致シマシテ、一時打切りマス

○小林委員 關聯事項デ御許ヲ願ヒマス、先程ノ御話ノ日本海海運會社ノ内容デアリマスガ、唯關係官廳ハ話ヲ進メテ近ク設立サセルト云フ御話ダケデスガ、モウ少シ其ノ内容ヲハツキリシテ戴ク譯ニハ參リマセヌカ、例ヘバ滿洲トノ關係ハドウ云フ風ニアルカ、出資ハドウ云フ關係デアルノカ、共同デヤルト御決メニナツテ居リマスガ、ソレナラバ出資ハドウスルカ、朝鮮ノ方ハ政府委員ノ御話デハ「ローカル・ライン」デハ入レナイト云フコトデアリマスガ、入レナイト云フコトノ爲ニ、今マデ總督府ト協調ヲ保ツテ御交渉ヲサツタ、苟モ國策ノ會社デアル以上ハ、朝鮮ダケノ「ローカル・ライン」デアレバ、朝鮮總督府ノ管轄ニ置イテ宜シイガ、併シナガラ苟モ内地ト朝鮮ノ連絡航路トシテハ、國策會社ニ統一スベキ

モノダト考ヘマスガ、ソレハ意見ノ相違デアリマセウガ、國策トシテ日本海ノ航路ヲ統一スルト云フコトカラ考ヘレバ、サウシナケレバ、意味ナイト思ヒマスガ、之ニ對スル大臣ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

○鹽野國務大臣 要スルニ日本海ヲ横斷シテ滿洲國ト最モ距離ノ近い連絡機關ヲ樹立スルト云フコトガ目標デアリマスカラ、所謂朝鮮ノ北方ニアリマス清津、羅津等二三ノ港カラ日本海方面ニ於ケル内地ノ主要ナ土地ニ直通スル、此ノ線ガ一番大事デアリマス、隨テ朝鮮沿岸カラ日本海ヲ航行スル所謂「ローカル」線ハ其ノ眼目ニ入ラナイ譯デアリマスカラ、之ヲ除クノデアリマス、出資ノ關係ニ付キマシテハ滿洲ノ資本ハ入ラナイノデアリマシテ、日本會社ダケデアリマス、併シ朝鮮ノ從來ノ航路モ日本海横斷ノ部分ガ入リマスカラ、朝鮮ノ會社モ出資スルコトニナルノデアリマス、滿洲ハ入リマセヌ

○小林委員 滿洲國ト共同經營デハナイノデスカ

○鹽野國務大臣 左様デアリマス

○小林委員 今ノ朝鮮ノ地方、清津、羅津、雄基カラ敦賀ノ方ヘ來ルノハ「ローカル・ライン」デアリマスガ、先程申シマシタヤウ

ニ「ローカル・ライン」ト云フノハ朝鮮ダケノ港ノ間ヲ往來シテ行クモノト限定シテ考ヘナケレバナラスト思フ、敦賀ノ方ヘ來、内地ヘ來タ以上ハ、ヤハリ日本海航路ノ統一ト云フ立場カラ考ヘナケレバナラストモト思ヒマスシ、又船會社ノ經營カラ云ヘバ直通航路以外ニ「ローカル・ライン」ト雖モ、補助航路デアリマスカラ、日本内地ニ於ケル補助航路ヲ持ツ以上ハ、統一ノ大キナ立場カラ行カナケレバナラスト思ヒマスガ、何故此ノ點ニ付テ遞信當局ハモツトハツキリトシタ強イ態度デ之ヲ御主張ナサラナイノデアリマセウカ、統一スル以上ハ完全ニ統一シテ行カナケレバナラスト思フ、何ガ故ニ、朝鮮總督府ノ監督權ヲ移讓スルノガ嫌ダト云フヤウナケチ臭イ官僚ノ考ニ引摺ラレテ、國策ノ徹底ト云フコトニ邁進サレルコトヲ躊躇サレルノカ、其ノ點ガ私ハ甚ダ不可解デアリ、遺憾デアルト思ヒマスガ之ニ對シ遞信大臣ハドウ御考ニナリマスカ

○鹽野國務大臣 前ニモ御答致シマシタヤウニ、直通線ヲ主眼ト致スノデアリマスカラ、朝鮮沿岸ヲ傳ツテ日本海ノ山陰方面カラ日本ノ沿岸ヲ傳ハルト云フモノハ眼中ニ置カナイノデアリマス

○野田委員長 板谷順助君

○板谷委員 私ハ大體ノ根本方針ダケヲ御伺致シマシテ、法案ノ内容ニ付キマシテハ只今參考資料ヲ頂戴シタバカリデアリマスカラ、此ノ次ニ質問ヲ留保サセテ戴キタイト思ヒマス、遞信當局ガ我國ノ海運界ニ對シテ非常ナ熱意ヲ以テ御努力ナサツタコトニ付テハ大ニ敬意ヲ表スルモデアリマスカ、如何ニ御努力ニナリマシテモ、先程山本君カラモ御話ガアリ、私モ議事進行ニ依ツテ申上ゲタヤウニ、内外地ヲ通ジタル海運業ノ統制ガ出來ザル限り、此ノ法案デ御出シニナツテ居ル海運組合法ノ如キモ、是ハ此ノ統制ガ一貫シナイノデアリマス、隨テ朝鮮ハ朝鮮デ獨立ノ計畫ヲ立テテ居ル、或ハ滿洲ハ滿洲デ立テテ居ル、今御質問ニナツタヤウナ事態ガ發生シテ居ルノデ、此ノ問題ニ付テハ床次遞信大臣、兒玉遞信大臣、永井遞信大臣、此ノ三大臣ニ於カレテモ、同感デアアル、出來ルダケ實現スルヤウニ努力スル、又鹽野遞信大臣モ一昨日ノ本會議ニ於テ實現スル考デアルト云フコトヲ仰シヤツテ居ル、デアルカラ、此ノ問題ヲ、私ハ、此ノ議案ヲ審議スルニ付テ先決問題デアルト云フコトヲ先程申上ゲタノデアリマスガ、要スルニ率直ニ申シマスレバ、

朝鮮ナリ或ハ臺灣ナリ又關東州アタリノ勢力ノ強イ爲ニ、遞信當局ガ引摺ラレタト言フカ、何ト言ヒマスカ、此ノ問題ガ未ダニ解決ヲ見ナイノデアリマスガ、是ハ一體遞信大臣、アナタノ大臣ノ時代ニ於テ此ノ問題ヲ解決スルダケノ御勇氣ガアリマスカ、ドウデアリマスカ、ソレヲ伺ヒマス

○鹽野國務大臣 微力デアリマスカラ果シテ效果ヲ得ルカドウカハ分リマセヌガ、大ニ努力スル積リデ居リマス

○板谷委員 是ハ今申上ゲタヤウニ、ドウシテモ之ヲ解決ナサラヌ以上ハ、海運ニ關スル所ノ問題ヲ御出シニナツタ所デ到底統制ハ出來マセヌ、是ダケヲ申上ゲテ置キマス

ソレカラ先程來山本君カラ御質問ニナリマシタ點ニ付テ、或ハ多少重複スル點ガアルカモ存ジマセヌガ、一ツ御許ヲ願ツテ御伺シタイト思フノデアリマス、我國ノ海運界ハ、當業者ノ利害關係ハ別問題ト致シマシテモ、此ノ海運界ノ發展ノ爲ニ、御承知ノ通り、海外ニ進出ヲ致シマシテ、國際貸借ニ對スル改善、或ハ又此ノ度ノ日支事變ニ付キマシテモ、國防ノ第一線ニ立ツテ非常ナル働きヲシテ居ルト云フコトハ、御承知ノ通りデアリマス、デアルカラ今同ノ支那事變ニ於キマシテモ、若シ支那ニ海軍ガ

アリ、或ハ又近距離ノ關係ガナカツタナラバ、恐クハ之ニ對スル我國ノ戰備ト致シマシテモ、豫期ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナカツタト思フノデアリマスガ、將來海運ノ發展ヲ圖ルト云フコトニ付キマシテハ、軍備擴張ト並行スベキモノデアルト私考ハハルノデアリマスガ、大臣ハドウ御考ニナリマスカ

○鹽野國務大臣 國防ノ上カラ申シマシテモ、又産業ノ發達ノ上カラ申シマシテモ、貿易ノ上カラ申シマシテモ、洵ニ御同感デアリマス

○板谷委員 ソコデ御伺シタイノデアリマスガ、先程來政府委員ノ御説明ニ依リマス、昭和十四年度ヨリ十六年ニ至ル造船計畫ハ二百萬噸、更ニ十七年ニ於テハ百五十萬噸ト云フ御話デアツタノデアリマス、隨テ此ノ計畫ニ對シマシテ、本年度ガ年度割ニ致シマスナラバ六十五萬噸デアリマスガ、所謂物動計畫トシテ、無論企畫院トノ御打合せガ出來タ上デアラウト思フノデアリマスガ、如何ナル困難ヲ排シテモ、此ノ計畫ニ對シテ徹底的ニ之ヲ實現サセルト云フダケノ御決心ガアリマスカ

シテ、マダ確定セザル所モアリマスルケレドモ、大體ノ方針ハ變ラナイノデアリマス、遂行ガ出來ルト考ヘテ居リマス

○板谷委員 ソコデ問題ハ造船能力ト資金關係ニ移ルノデアリマスガ、或ハ政府當局ハ既ニ御承知デアアルカモ知レマセヌガ、一昨年來各造船所ニ對スル注文ハ、明年ノ下半年或ハ明後年ノ上半年デナケレバ出來ナイコトニナツテ居ルノデアリマス、現在注文シテアル所ノ船ガ百四十六艘、此ノ船ガ今年度ノ計畫ニ入ツテ居リマスカドウデスカ

○伊勢谷政府委員 御答ヲ申上ゲマス、目下ノ所何ト申シマスカ、一面ニ於キマシテハ造船ガ非常ニ進捗シテ參リマシテ、一時昨年ノ夏頃ニ造船ノ手持數量ガ百萬噸ト云フ風ニ稱ヘラレテ居ツタノデアリマスガ、ソレガ大體ニ於キマシテ、順次相當進捗ヲ見テ參リマシテ、今マデニ注文ヲサレテ居リマスモノハ、是ハ材料ノ關係モ多少入ツテ居ルカ存ジマセヌガ、工事ノ關係等カラ致シマシテ、大體ニ於テ十五年中ニ二十萬噸、ソレカラ十六年中ニ於テ六萬四千噸、ソレカラ十七年中ニ於テ五萬五千噸ト云フモノガ竣工スル豫定ニナツテ居リマス、併シ是ハ工事ガ遅レタカラト云フバカリデハ

ゴザイマセス、例へば大型優秀船ノ如キモノハ、是ハ十七年度マデ掛ルモノデアリマスシ、ソレカラ第一種ノ建造ノ如キモノモ、年度割計畫カラ云ツテ、後年度マデ掛ツテ來ルモノデアリマス、サウ云フモノモ入ツテ居ル譯デアリマス

○板谷委員 ソコ御伺シタイと思ヒマスノハ、先程ノ御話ニ依リマス、十四年度ガ九千万圓デアルスレバ、中型小型ヲ平均シテ、約三百圓トシテ見テモ、三十万噸、之ニ對スル所ノ低利資金ノ融通ハ出來マスガ、豫定ハ先程御話ノ通り、六十五万噸或ハ七十万噸ニナルカ知ラスガ、其ノ後ノ金額ヲ或ハ自己資金其ノ他ニ依ルト云フヤウナ御話ガアツタケレドモ、併シナガラ政府ハ低利資金ヲ出サレ以上ハ、恐クハ之ニ依ルモノガ多イト思フノデアリマス、自己資金ノ割合ノ高イ金ヲ使ツテヤルト云フヤウナ者ハ殆ドナイト思フノデアリマスガ、此ノ九千万圓デ以テ豫定ノ造船ヲヤラウト云ツテ見テモ、事實ニ於テハ出來ナイノデアリマス、ソレニ對スル對策ハドウ御考ニナツテ居リマスカ

○伊勢谷政府委員 此ノ金融法ニ基キマサル資金ノ貸付ハ、原則トシテ造船價格ノ三分ノ二ト云フコトニナツテ居リマス、尤モ

例外ト致シマシテ金額マデ貸付ケ得ル場合ヲ決メテ居ルノデゴザイマスガ、原則トシテハ建造セラレタ船舶ニ、第一順位ノ抵當權ヲ附ケルト云フコトカラ致シマシテ、擔保價格ノ上カラ三分ノ二ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、隨テ原則トシテ建造價格ノ全額ヲ貸付ケルモノデアイト云フコトガ一ツト、ソレカラモウ一ツハ、是ハ過去ノ實績デゴザイマスカラ、將來ハ變化ヲ生ズルカモ知レマセヌガ、實際建造セラレマシタ船舶ト、其ノ中豫算外獎約ニ依ル制度ノ工事ニ於ケル貸付ヲ申出タモノノ數トヲ比ベテ見マス、船舶建造ノ場合ニ於テ、必ズシモ皆ガ借入ヲ申込ムト云フコトニナツテ居ラナイノデゴザイマス、併シ將來ニ於テハ相當變化ガ生ズルカモ知レマセヌ

○板谷委員 三分ノ二ト云フコトハ分ツテ居リマスガ、假ニ平均三百圓トシテモ、詰リ一千万圓ナラバ約三十万噸、併シナガラ半分デアルカラ、其ノ後若シ物動計畫ニ依ツテ此ノ目的ヲ達スルト云フ場合ニ付キマシテハ、低利資金ガ不足デアルト云フ場合ニ於テハ、此ノ計畫ハ出來ナイ譯デアリマスカラ、ソレニ對スル金額ノ増加ハ何等カノ方法ヲ御考ニナラナケレバ、此ノ目的ヲ

達スルコトハ出來ナイ、斯ウ云フコトヲ私ハ申上ゲタノデアリマス、ソコ御伺致シマスガ、我國ガ海外ニ對スル航行權ヲ維持スルト云フコトニ付テハ、勿論外國ノ船價ノ程度マデ引下ゲナケレバナラス、外國ノ船價ニ比較シテ我國ガ相當ニ船價ヲ引下ゲルト云フコトニ付テハ、或ハ造船獎勵ナリ、補助ナリ、有ユル方法ニ依ツテ政府ハ御考ニナツテ居リマスガ、一體標準ハ幾ラ位ガ適當デアルト御考ニナリマスカ

○伊勢谷政府委員 海運ニ精通セラレタカラノ御質問、洵ニ恐入リマス、世界ノ海運市場ニ於テ競争致シマス爲ニ船價ヲドレ位ニ考ヘテ行ツタナラバ競争ガ出來ルカト云フ非常ニ難シイ御質問デゴザイマスガ、之ニ對シマシテハ原則トシテ日本ノ造船價格ナルモノガ外國ノ造船價格ヨリモ高イト云フコトデハ困ル、ドウシテモ非常ニ優勢ナ海運力ヲ持ツテ居リマス國ノ造船價格ト同ジ「レベル」マデ引下ゲル必要ガアリハセヌカト考ヘテ居リマス、併シナガラ將來海外發展ト申シマスガ、世界ノ海運市場ニ於テ、國際的ナ輸送ニ日本船ガ大ニ貢獻スルト云フ立場カラ考ヘマス、愈益、船價ヲ安クスル方法ヲ講ジナケレバナラスモノト考ヘマス

○板谷委員 昨日モ新聞ニ出テ居ツタノデアリマスガ、英國ノ海運委員會ニ於キマシテ、我國ノ船舶ノ海外進出ニ對シテ非常ニ脅威ヲ感じテ居ル、御承知ノ通り船主ハ割合商賣上手ト言ヒマス、又船員諸君ハ割合安イ給料ヲ熱心ニ働クト云フ非常ナ特典ガ我國ニハアル、デアルカラ此ノ機會ハ海外ニ於ケル航行權ヲ獲得シナケレバナラス絶好ノ時機ト私ハ思フノデアリマス、只今政府委員ハ出來ルダケ船價ヲ外國ト同ジ比率ニ引下ゲルコトニ努力シタイト云フ御話デアリマシタガ、御承知ノ通り我國ノ船價ハ昭和七八年ニ比較シマス、約二倍以上ノ高値ニナツテ居ル、即チ六七千噸型ノ船ガ昭和十年最低百七十圓位デアツタモノガ昭和十三年ニ於テ最高三百六十圓トナツテ居ル、英吉利デハ千九百三十五年即チ昭和十年同船型デ以テ百二十圓程度ノモノガ、昨年ハ二百二十圓位デアアルカラマダ百四十圓モ開キガアルト云フヤウナ状態デアリマス、デアルカラ將來外國船ニ對抗シテ出來ルダケ海外ニ進出スルニ付テハ、今一段ノ御努力ガナケレバナラスト私ハ思フ、ソコデ補助ナリ或ハ船價償却ト云フ問題ガ起ツテ來クノデアリマスガ、御承知ノ通り我國ノ船舶界ハ戰爭毎ニ發達シテ居ル、併シナ

ガラ其ノ一面ニ於テハ、戦争ノ後ニハ非常ナ不況ニ陥ツテ居ル、幸ニ船主ナリ船員諸氏ガ堅忍不拔ノ精神ヲ以テ不況ヲ乗切リ、政府モ亦有ユル努力ヲサレテ、段々恢復シテ今日相當ノ發達ヲシテ居ルノデアリマスガ、ソレニ付テハ例ヘバ船價償却ノ如キモ先程山本君カラ色々御話ガアリマシタガ、政府委員ノ御説明ニ依リマス、昭和十四年ノ四月一日以降ニハ船舶價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ三年以内ニ償却スルト云フ御話ガアツタノデアリマス、所ガ大體船價ハ昭和十二年以來何等變リガナイ、今日ト雖モヤハリ三百五十圓以上シテ居ル、デアルカラ昭和十二年以後造ツタ船ニ對シテ、之ヲ四月一日以降ニ造ツタ船ト同様ノ率ヲ以テ償却スルノガ私ハ當然ト考ヘルノデアリマス、勿論是ハ大藏省ノ關係デアリマスカラ、何レ大藏政府委員ニ來テ貰ツテ之ニ對スル答辯ヲ聽ク積リデアリマスガ、遞信當局ハドウ御考ニナツテ居リマスカ、是ハ大臣カラ御答辯ヲ願ヒマス

○鹽野國務大臣 十四年度四月以降ニ於ケル償却ヲ、十二年以後ノ船ニ遡ツタラドウカ、之ニ付テ遞信當局モ色々心配ヲシテ、大藏省ト交渉シツ、アリマス、中々難シイ問題ダサウデゴザイマス

○板谷委員 船價ヲ引下ゲテ出來ルゲ目本ノ將來ノ海運界ノ發達ヲ圖ルト云フコトニ付テハ、去年造ツタ船ト、今年造ツタ船ハ何等變リノアル譯ハナイ、船價ニ於テ今申上ゲルヤウニ同一ノ高値デアルカラ、是ハドウカ大藏當局ト出來ルダケ御交渉ニナツテ、其ノ目的ヲ達セラレンコトヲ希望致シテ置キマス

ソレカラ尙ホ御伺シタイコトハ、現在ノ海上保險料ハ非常ニ高い、是ハ要スルニ保險會社ガ獨占的ニ横暴ヲヤツテ居ルヤウニ私共感ゼラレルノデアリマス、此ノ法案内容ニ付テハ何レ質問致シマスケレドモ、例ヘバ擔保價格ニ付キマシテモ保險金額ノ五分ノ四ト云フコトガ出テ居リマスガ、現在ノ保險會社ノヤリ方ハ、率ヲ其ノ儘ニシテ置クナラバ船價ヲ上ゲロ、船價ガ其ノ儘ナラバ率ヲ高クシロト云フヤウナコトヲ言ツテ居ル、隨テ保險金額ノ五分ノ四ト云フコトデアリマスケレドモ、保險會社其ノモノハ船ガ無難デ故障ガナイダラウカラ保險金ヲ高ク取ツテ成ベク保險收入ヲ多クシタイト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマスガ、之ニ對シテ御取締ニナツテハ如何デスカ

○鹽野國務大臣 左様ニ高イト云フコトハ面白クナイコトデアリマスカラ、商工省ト

能ク協議ヲ致シテ、成ベク適當ニ處置シタイト存ジマス

○板谷委員 先程山本君カラ海員ノ御話ガアツタノデアリマスガ、政府當局ニ於テハ能ク調査ノ上御返事スルト云フ御話ガアツタノデアリマス、私カラモ此際一應御確メシテ置キタイト思フノデアリマス、先般議會ニ於テ政府ハ國家總動員法ニ基イテ、高等海員免狀所有者ヲ調査シテ、其ノ不足ヲ補充スルト答辯サレテ居ツタノデアリマスカ、之ニ對スル何カ御調ハ出來テ居リマスカ

○鹽野國務大臣 其ノ取調ハ本年ノ四月一日ヲ期シテ登錄サセルコトニナツテ居リマスノデ、其ノ結果ヲ待チマシテ、ソレニ應ズル處置ヲ執リタイト考ヘテ居リマス

○板谷委員 マダ御調ベニナツテ居ナカツタラ私カラ申上ゲマス、現在求職者ガ二百三十八人アリマス、此ノ中ニ六十歳以上ノ者ガ六十九人アル、デアルカラ政府ガ御調査ニナルマデモナク、現在遊ンデ居ル者ガ全部海上勤務ヲスルコトハ困難デアル、隨テ一時的デハアリマスルケレドモ、航海不能ニナツタ船モアルト云フコトガ現在ノ實情デアリマス、又先程申シマシタ通り、現在造船ガ決定シテ昭和十四年及ビ十五年ニ

落成ヲスベキ豫定ノ船舶ハ百四十六艘アル假ニ一艘七人ノ高等海員ヲ要スルトスレバ千二十二人ヲ必要トスル、本年度學校卒業者及ビ別科卒業者ガ全部海上ニ勤務スルトシテモ五百三十八人シカナイノデアリマス、從來ノ例カラ申シマス、一割以上ハ轉業シテ船ニ從事シテ居ラヌ、デアルカラ尙ホ四百八十四人不足スルト云フ計算デアリマス、現在註文シテアル船ガ出來上ツタ場合——是ハ將來ノ問題デハアリマセヌ、更ニ又支那方面ノ水先人或ハ港務官、税關等ニモ海員ノ免許狀所有者ノ必要ガ一層増シテ來ル、デアルカラコデ私ハ政府ノ御意嚮ヲ伺ヒタイノデアリマスガ、此ノ學校ノ入學者ハ、高等工業學校ノ例ニ倣ツテ、六箇月早く修了サシテ之ヲ世ノ中ヘ出シタラドウダ、勿論是ハ文部省ノ關係モアリマセウガ、此ノ點ニ付テハ遞信當局ハドウ御考ニナツテ居リマスカ

○鹽野國務大臣 其ノ點ハ御尤デアリマス、文部省トモ協議致シタイト存ジテ居リマス

○板谷委員 ソコデ私ハ一時的の便法トシテ六千噸以上、三千馬力以上ノ船ニアラザレバ、三等運轉士又ハ二等機關士ハ法定職員トシテ必要ナラズト云フコトニ改正サレタラドウデスカ、是ハ遞信當局デ御答辯ガ出

來ヤウト思ヒマス

○伊勢谷政府委員 數ヲ擧ゲテノ詳細ナル御質問デゴザイマシタガ、私共ノ方デモ實ハ來年度、再來年度ノ海員ノ狀態ガドウナツテ來ルカト云フコトヲ神經過敏ニ調ベテ居ルノデゴザイマスガ、ソレニ依リマス特新造船ガ出來テ來ル、ソレカラ又新陳代謝ガ行ハレル、サウ云フモノヲ需要ノ方ニ見込ンデ行キ、又供給ノ方トシテハ只今仰セノヤウニ官立ノ商船學校、公立ノ商船學校、ソレカラ水產關係ノ方カラ來ル者、商船學校ノ別科ヲ臨時ニ養成ヲヤツテ居ル者、實地ノ方カラ來ル者、海軍ノ方カラ來ル者、斯ウ云フ者ヲ供給ノ方ト見マシテ、結局高級船員ニアツテハ十四年度ニ於キマシテ約二百名バカリ不足スルト云フ計算ニナツテ參リマス、ソコデ先程御尋ノ例ノ登錄制度デアリマスルガ、是ハ私ノ方デ海員免狀ヲ出シテ居リマスル數ヲ調ベテ見マス、甲板關係ニ於テ六萬三千四百六十七人、機關關係ニ於テ四萬七千三百三十人ト云フコトニナツテ居リマシテ、合計致シマスト十一萬七百九十七人、斯ウ云フ譯デアリマス、然ルニ此ノ中實際船ニ乗ツテ居リマス者ノ數ハ、御承知ノ通り非常ニ僅少ナ數デアリマシテ、一〇%位ト云フ數字デゴザイマス、併シ此ノ中ノ大

部分ハ、或ハモウ老齡デ船ニ乗ルコトガ出來ナイトカ、或ハ病氣ヲシテ居ル者モゴザイマセウシ、色々ナ關係デ是ダケノ者ガ皆船ニ乘リ得ルトハ私共ハ毫モ考ヘテハ居リマセス、併シ登錄制度ニ依リマシテ、登錄サセマシテ、其ノ登錄制度ノ中ニハ、其ノ技術ヲ實際ニ檢査スルコトガ出來ルヤウニモナツテ居リマスカラ、此ノ方面カラノ供給モ圖リタイト考ヘテリ居ルノデゴザイマス、ソレカラモウ一ツハ、是モ既ニ御承知ノコトデアリマスルガ、海員ノ職業紹介所ノ極ク最近マデノ狀況ヲ見マスルト、高等海員ノ求人數ト、求職者數ト、就職者數ヲ比ベテ見マス、昨年ノ十月ヲ採ツテ見マシレバ求人數ガ二百三十五人、ソレニ對シテ求職者數ガ四百七十七人、就職者數ガ二百二十五人、斯様ニナツテ居リマス、毎月大體ニ於テ二百五十人乃至三百人位ノ就職者ヲ見テ居ル狀況デゴザイマス、隨ヒマシテ職業紹介機關ノ方ノ能率モ舉ゲルヤウニ致シマシテ、是等ノ補給ヲシテ十分ノ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

○板谷委員 尙ホ希望トシテ申上ゲテ置キタイノデアリマスガ、調査々々ニ時日ヲ費サレテハ日ガ暮レテシマツテ、此ノ下半期ニハ恐ラクハ運航ノ出來ナイヤウナ船ガ相當ニ出來ハシナイカト心配シテ居ルノデアリマス、デアルカラ例ヘバ公立商船學校、其ノ他海上實歷ヲ有スル上級免狀ノ受験者モ相當ニ多數アルコトダカラ、之ニハ高等商船學校別科ト同等程度ノ試験ヲシテ、成ベク早く免狀ヲ下附サレルヤウナ御取計ヒヲ願ヒタイ

○伊勢谷政府委員 洵ニ御尤ナ御意見デゴザイマシテ、免狀ノ出シ方ニ付キマシテハ十分ニ研究致ス積リデゴザイマス、ソレカラ無線技師ノ方ニ付キマシテ左様ナ實情ガアルト云フコトハ、私共モ聞イテ居ル所デゴザイマシテ、是ハドウシテモ仰セノヤウニ供給ヲ潤澤ニシナケレバナラスト考ヘマシテ、無線技師ノ養成ヲスル方ト打合セテ、養成定員ヲ非常ニ殖スコトニ致シテ居リマス、併シ來年度ニ於キマシテハ、私共ノ計算ニ於テハ高等船員ノ方トハ事變ツテ、無線技師ノ方ハ、養成ノ計畫カラ申シマスレバ、相當餘リヲ生ズルト云フ計畫ニナツテ居リマス

○小山委員 關聯シテ簡單ニ御伺致シマス、今板谷委員ノ仰セニナリマシタコトハ極メテ重大ナ事デアラウト思ツテ居リマス、板谷委員ノ言ハレマスコトハ、本年カラ引續イテ今後六年間海員ガ年々最少限度

六百人乃至七百人ノ不足ヲ來スト云フコトハ、是ハモウ計算スルマデモナク明瞭ナコトデアリマス、隨テ之ニ對スル所ノハツキリシタ對策ハ、今日遞信當局ガ御持ニナラナケレバナラス筈デアリマス、只今管船局長ノ御話デハ、陸上ニ於ケル休職者ヲ主トシテ狩出ス、尙ホ學校ノ卒業學生ヲ之ニ充テル、海軍ノ軍人等モ動員シテ此ノ不足ヲ補フ、斯ウ云フコトヲ言ハレマシタガ、商船ノ性質ト海軍ノ軍艦ノ性質ト云フモノハ全ク變ツテ居ルノデアリマス、之ヲ同ジヤウニ御覽ニナル所ニ、私達ハ遞信省ノ方々ガ海ニ對スル所ノ、商船ニ對スル所ノ認識ガ全ク缺如シテ居ルノデハナйкаト云フ風ニスラ思フノデアリマス、海軍ノ軍人ハ戰フコトハ知ツテ居リマセウ、併ナガラ商船乗組員ハ商賣ヲスル、船ヲ操縦スルバカリデナシニ、外國ニ行ツテ商賣ヲスル、商行爲ヲスルノデアリマスカラ、此ノ關係ニ於テ、船主ハ成ベク安イ人ヲ使ヒタイノデアリマスケレドモ、併シナガラ恩給ヲ取ツテ居ル海軍ノ軍人ガ如何ニ安ク來ヨウトシテモ使ヒタガラナイノハ、商賣ガ出來ナイカラ、結局サウ云フ人ヲ使ヘバ非常ニ損ヲスルト云フ結果、海軍ノ軍人ヲ使ハナイト云フコトニナツテ居ルノデ

アリマス、而モ本年度ノ不足人員ヲ斯ウ云フ人々ヲ以テ充テマシテモ不足ガ二百名アル、ソレナラバ明年ハドウスルカ、引續明イテ明後年ハドウスルカ、今後六年間ドウスルカト云フ問題ニナツテ來ルト、恐ラク遞信省デハ對策ガナイト私ハ思ツテ居リマス、ソレ故ニ今板谷委員ノ御質問ニナリマシタコトハ、遞信省ハ十分ニ御考慮ナサル必要ガアリハセヌカ、例ヘバ今日此ノ不足人員ヲ補フ爲ニ、試験ヲ極メテ低下サセテ成ベク安易ニ代用免狀ヲ與ヘル、サウシテ船ニ乗セルヤウニ、急造ノ海員ヲ造ルト云フコトニ御考ニナルナラバ、ソレヨリモ寧ろ現在正規ノ教育ヲ受ケテ居リマスル官立ノ商船學校、或ハ地方ノ商船學校ノ陸上學科ヲ了ヘテ、實習生トシテ船ニ乗組ンデ居リマス者ノ實習期間ヲ、一年ナリ半年ナリデ切上ゲテ、サウシテ早く御使ヒナサル方ガ、私ハ正規ノ學問ヲ餘リシテ居ラス者ニ急ニ澤山ノ免狀ヲ與ヘルヨリモ、遙ニ好イ結果ニナリハセヌカ、其ノ正規ノ教育ヲ施サレテ居ラナイ者ニドシノ代用免狀ヲ濫ニ與ヘルト云フ結果ニナリマスルト、海難事故ト云フモノハ非常ナ數ニ上リマス、ドンナニ船ヲ造リマシテモ海難事故ガ多カッタ何ニモナラナイノデアリマス、此ノ點ハ非常

ニ重要ナコトデアリマスカラ、是ハ申スマデモアリマセヌガ、遞信大臣モ特ニ御考慮ヲ願ハナケレバナラスト思ツテ居リマス、ハツアル商船學校ヲ四ツニ減サウナ間違ツタ頭ヲ持ツテ居ル位ノ政府當局ノ方々デアリマスカラ、私ハ是ハ遞信大臣ガ特ニ御考ヘ置キ願ヒタイト希望シマスガ、遞信大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス

○鹽野國務大臣 至極御尤ナ御意見デアリマス、單ニ急場ノ間ニ合セノ爲ニ甚ダ未熟ナ者ニ對シテ免狀ヲ與ヘルト云フコトハ、是ハ嚴ニ慎マナケレバナラスコトト存ジマス、此ノ點ニ對シマシテハ、尙ホ文部當局ト能ク御協議ヲ致シマシテ、十分ニ警戒ヲ致シタイト存ジマス

○小山委員 私ハ是デ宜シウゴザイマス

○野田委員長 此ノ際資料ノ御要求ガアレバ御申出ヲ願ヒマス

○田中委員 私ノ御願致シテ置キマスルコトハ、一千噸以上ノ船「メール・ポート」ハ別段大シテ必要ハナイト思ヒマスガ、主トシテ「カーゴ・ポート」デス、其ノ一千噸以上ノ船ノ船齡デス、中々面倒デセウカラ三千噸未滿、ソレカラ三千噸以上五千噸、或ハ五千噸以上六千噸ト云フ風ニ、先ヅ一萬噸ヲ標準トシテ五ツ位ニ分ケテ船齡別ノ

表ヲ提出シテ戴キタイ、ソレカラ委員長ニ御願シテ置キマスコトハ、此ノ次ニハ海軍ノ政府委員ト文部省ノ政府委員ノ御出席ヲ御願シタイト思ヒマス

○板谷委員 私カラモ資料ヲ要求致シマス、船舶業者ニ政府ガ補助金ヲ出シテ居ル其ノ内譯、各社別ニ内地外地ヲ通ジテモノヲ御提出願ヒタイ、ソレカラ此ノ次ノ會議ニ拓務大臣、大藏省主稅局長ノ出席ヲ要求致シマス

○小山委員 一千噸未滿ノ船舶隻數及ビ噸數、是ハ内地、關東州、朝鮮ノ船舶ノモノデアリマス、其ノ内譯トシテ官廳所屬ノ汽船ノ隻數ト噸數、ソレカラ「トロール」船其ノ他ノ海運業ニ携ハラナイ船ノ統計ガゴザイマシタナラバ、是モ其ノ隻數ト噸數トヲ御示ヲ願ヒマス、尙ホ遞信省ノ御調査ハ總噸數二十噸以上ダト思ヒマスガ、總噸數二十噸以下ノ船ノ隻數及ビ噸數等ニモ御調査ニ相成ツテ居リマシタナラバ、ソレモ資料トシテ出シテ戴キタイト思ヒマス

○本原委員 山本委員カラノ御請求デアリマスガ、私代ツテ申上ゲマス、一ガ海員現在ノ員數、是ハ昭和十三年現在數、尙ホ内譯トシテ乗船者及ビ下船者、疾病其ノ他乗船シ難キ者、第一ハ海員現在一ケ年増減數、

第三ハ將來ノ要員ト供給計畫、第四ハ航路補助金ノ明細、航路竝ニ船主名別、第五ハ主ナル海運國ノ船員保險制度、第六ハ船價償却トシテ主ナル海運國ノ實例、以上御願致シマス

○岡崎委員 私カラモ資料ヲ御願致シマス、遞信省令デ是マデ出シテ居ツタ所ノ船舶改善助成資金、ソレヲ噸數二千噸或ハ三千噸ト云フ風ニ噸數別ニ御提出ヲ願ヒマス

○野田委員長 ソレデハ本日ハ此ノ程度ニ止メマス、明日ハ速記ノ都合ガ付キマセヌカラ明後日ノ午後一時ニ開會スルコトニ致シマス、次會ニハ文部大臣、拓務大臣、厚生大臣、主稅局長ノ御出席ヲ要求致シマス  
午後四時二分散會

昭和十四年三月十三日印刷

昭和十四年三月十四日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局